

三 元禄八年六月、十二月

〔表紙〕

前谷村

万覚帳

六月八日、同十二月廿九日迄 土屋次郎左衛門

元禄八乙亥年六月八日

一 東善寺村久兵衛、十右衛門出入嘜ニ東善寺村へ参候へ共、久兵衛何角と申ニ付相濟不申候ニ付罷歸□

一 谷畠村武兵衛方へ参、長百生共呼候而御取「」段々申聞候

一 本庄参、七太夫同道ニ而罷歸候ニ付大文字や「」寄候而、畳

之床拾畳かい置候由申候

一 南金津斎木甚兵衛方へ参、大連三郎左衛門ニあい「」溝江郷

水之事相談いたし候

一 四ヶ村の轟木・下関へはいふニ而申遣し「」無之由ニ而、

大連三郎左衛門村々被罷出候間、田地「」ニ而水廻シ可被申

候間、三郎左衛門指図次第「」申遣し候

一 菅野十右衛門方へ参、明日舟寄へ三郎左衛門^(籠カ)舎御侘言可参由申

候

一 矢地惣百生中清兵衛所へ呼「」申候、其上御取立御急用之

由申付「」

同九日

一 東善寺村久兵衛・次郎右衛門参候而「」嘜之通ニ而相濟可申由申ニ付、然者仮証文仕候様ニと申付、右出入之畑を出し嘜人酒手として銀拾匁出し可申由証文仕候

一 下関村七右衛門・吉右衛門宗旨下帳として持参申ニ付、此帳ハ能候間清帳ニ仕候様ニと申候へハ、下帳無之来年御改之ためニ候へハ、清帳此方ニ而書くれ候様ニと申付か、せ申候

一 菅野村甚左衛門参、籠入侘事ニ庄屋長百姓舟寄へ罷出くれ候様ニと申来候ニ付舟寄へ参、布目彦兵衛・舟寄善右衛門同心ニ而御侘事仕候へ共御聞入無之候

一 東善寺村十右衛門出入嘜ニ而相濟、久兵衛ニ仮証文為致候由申上証文御目ニかけ候

一 金貳両壹分銀壹分八厘八木忠兵衛ニ相渡ス、此内壹両貳分年内かり金、此利九匁、外ニ金貳分銀貳分八厘九厘、御口米代御口銀かり貳口、かり金合貳両壹分銀壹分八厘也、内壹両銀六匁自分出し、金壹両ハ市兵衛へ出し申候、残而九匁壹分八厘自分ハ市兵衛ニかし分、右之通さん用ニ而忠兵衛方へ入置申貳枚証文、質物手形共請返し申しかけや方ニ而金貳両

一 舟寄仕廻罷歸候ニ付丸岡通り罷歸候

一 川原彦左衛門様三国御配符被遣候ハ、矢地村庄や長百生早々三国へ遣し候様ニと申来候ニ付、早速七郎右衛門・清兵衛呼候而今夜之内ニ三国へ参候様ニと申遣候、御配符有之ニ付留不申候

一 笹岡村御廻米不足有之申来候ニ付はいふ遣し候へハ、十日ニ庄や宗左衛門参候ニ付急度申付候

一 下関村御廻米不足之由申来候ニ付、はいふニ而早々米入候様ニと申遣候

一 同村与三兵衛ニ上乘ニ可参候由為申渡参候様ニと申遣し候

一 十一日ニ宗旨御改百生判取可申候間、惣百姓中印判を持庄や長百生参候様ニとはいふ遣し候

六月

同十日

一 笹岡村庄や長百生呼寄、御取立之儀御廻米不足かけやかり金之事申付□

一 清王九右衛門・与兵衛参、甚兵衛雑家「」権兵衛指合立させ不申候由断ニ参「」

一 金三両かり主清王九右衛門、かし主金津「」此質物山三ヶ所、御裏判指紙出ス

同十一日

一 金九兩三分かし主金津助右衛門、此質「」之内式拾五石八山室村六左衛門、式拾五石八同村「」、三拾石吉右衛門、指紙遣し申候

一 金拾両かし主金津助右衛門、此質高五拾「」式拾五石、かり主義兵衛、式拾五石かり主「」、御裏判之指紙遣し候

一 宗旨御改百姓判取申候

一 清王甚兵衛雑家銀之事、権兵衛・九右衛門□□之事ニ候へハ、十楽五十郎嚙相濟候様ニと申付候

同十二日

一 舟寄へ参候付前谷市兵衛を金壹分預り舟寄へ持参仕、自分御年貢金壹両式口メ壹両壹分上納いたし、御通ニ付市兵衛ニ相渡ス

一 北村五兵衛を金壹兩三分預り舟寄□□いたし、自分御年貢金三分式口メ式^(兩)式分御通ニ付五兵衛へ相渡し候

一 御年貢未進金、六月十日・廿日・晦日割帳ニ村々判形取指上申候

一 戌年村々諸遣帳式拾壹冊、同下ケ帳廿壹冊、メ四拾式冊舟寄へ指上申候

一 菅野村八左衛門・三郎左衛門籠舎之御侘言申上、則右兩人庄や長百生証文被仰付出籠仕^(候)

一 与下村々を山手銀米・江料米其外何ニ而も□領他村へ渡し来り候、分又ハ他領他村「」申分吟味仕、書付指上候様ニと被仰付^(候)

一 右之趣并丸岡浪人衆之証文指上候様ニと後山茂右衛門方へ被仰越候ニ付其通後山へ^(マ)

一 当十五日ニ与頭中舟寄へ寄候而年内を之諸遣わり可仕と舟寄善右衛門被申ニ付後山へ申遣^(候)

指上申一札之事

右戌御年貢金ニ借用仕候由御裏判を「」吟味仕候処相違無
御座候間御裏判被為成可□□、以上

亥六月十四日 前谷村与頭 次郎左衛門印

舟寄 御勘定所

一銀三匁九分 山手銀柿原村の西方寺□□取

一権右衛門三國へ参候、菅野村之者共出「」仰付候義川原彦

左衛門様為御礼、就夫下□□御廻米不足之義ニ付逗留いたし候由、

菅野之者共ニ書状遣し候

同十五日

一持仏表具之儀ニ付清王之御寺へ参候

一米六斗 江料米 谷島村の東善寺村へ

一米壹斗五升 山手米 谷島の金屋村「」

一銀五分 山手銀 谷島の金屋村へ

右ハ谷島村武兵衛照嚴寺□参申候

一銀五分 山手銀 金津弥介の清王村へ

一銀五分 山手銀 金津助右衛門の清王村へ

一金津弥次右衛門今日参候由

一紺地八ツ藤のきんらん(金欄)、幅貳尺貳寸、長三尺四寸

但式百五十代三幅惣縁之積り

一赤地蓮花唐草のきんらん(蓮)、は、八寸、長壹尺六寸

右三ふく小へりの積り

一半紙式百枚、筆八対、メ四色 京へ□□
一権右衛門三國の不帰候

同十六日

一河原毛馬四才、黒毛馬四才、鹿毛馬四才

一栗毛馬三才、合四疋、馬主新用村二郎兵衛板取口通り証文出申し

候、但小荷駄也

一昨十五日ニ舟寄へ郷盛ニ参候様ニと善右衛門申遣し候、我等清王

御寺へ参権右衛門ハ三國参候付、「」舟寄へ御出候ハ、自

分不罷出候間、何れも□断被申候様ニと手紙後山へ遣し申候

一米九升六合、江料米、東善寺村の高塚村へ渡□□

一菅野村十右衛門・八左衛門・三郎左衛門山出入相済申ニ付「」

して参候、次ニ金子左衛門殿へ宗旨請状持参

一笹岡村庄屋長百生呼寄、かけやかり金并二十日切御割金之事申付

候

同十七日

一黒毛馬壹疋五才、かけ式疋六才、右三疋髮切、黒毛馬壹疋六才、

栗毛壹疋六才、右式疋小にた、メ五疋矢地村吉兵衛

覚

一熊・猪・狼のたくひ、人ニ喰掛り不申候共人の養置候馬・牛・犬・

猫・鶴杯の鳥獸ヲ損さし申鉢二候ハ、追払候て損さし不申様ニ可仕候、若追払候節先へ当り死申候分ハ不苦候事
一犬・猫たとへハ鳥獸を損さし友々喰合候ハ、いたまざる様ニ引わけ可申候事

亥五月廿五日

右之通被仰出候間村々急度相守可申者也

元禄八年

(五味豊法・舟寄代官)
五小左衛門

御書付之趣奉畏候、村中大小之百姓・召仕等迄為申聞急度相守可申候、若違背仕候ハ、何様之曲事ニも可被仰付候、為後日村々連判証文指上申候、仍如件

亥六月

前谷組

御代官様

何村庄屋 誰印
同村長百生 誰印
何村庄や 誰印
同長百生 誰印

右之通庄や長百生判形取指上候様ニと (マ)

一金式両三分

前谷組

右ハ戌十月十五日ハ亥六月十五日迄諸入用銀先仮割ニ何れも立合如此二候、「」取立候而可被遣候、重而各立合本割之時分指引可致候、以上

六月十七日

舟寄
善右衛門 印

前谷村二郎左衛門殿

一麻木す拾枚 (簀)
代銀四匁 菅野村

一竹拾五本 代壹匁五分 同村

一こも拾枚 代三匁 下関村

一同拾枚 代三匁 矢地村

右盛銀我等与下ハ出し物之由「」寄合所ハ参候、此外門松

七飾、竹拾四本、十楽・青野木・山室三ヶ村ハ出し候処、書付無

之候ニ付舟寄善右方へ申遣し候

一十五日ハ後山善兵衛舟寄へ盛ニ被参候而今日相濟被帰候由ニ而、

右之盛銀書付并ニ御法度書付リ書状指添被指越候ニ付、此方ニ留置申分之外布目へ遣し候

一最前舟寄へ入置候米御用無之候ニ付、村々ハ十九日ニ舟寄へ取ニ

参候様ニといつ「」相談被申越候ニ付、其通村々配符□□

一御法度証文ニ判形取可申次第、其外舟寄仮わりを以盛可仕候間庄や長百姓廿日ニ参候様ニと配符遣し候

一三国ハ権右衛門不帰候ニ付今日呼ニ遣し申候

一矢地清兵衛馬引上方へ参候、御用等跡々半兵衛支配仕来り候ニ付構無御座候、然共為断と参候

一御簾尾太兵衛ニ笹岡山之事物語いたし候

一権右衛門三国ハ罷帰り候

六月
同十八日

一権右衛門舟寄へ遣シ候処布目彦兵衛ニ様子被仰越候ニ付、権右衛

門ニハ御取立□□被仰越候、権右衛門早々罷帰

一本庄へ参候処布目彦兵衛舟寄を帰り二本庄迄参候而、舟寄二而之様子物語被致候而承候、日帰り、道休も金三両請取

此質高式拾石

長 弥三(兵衛カ)

一東善寺村十右衛門本庄迄参「」申二付、右を申通二いたし「」久兵衛方相濟置候へ共、其村へ参濟証文取可申と存候内不得透延引□今日参可申と申聞候

一矢地へ参老吟味帳仕立候様二と申付候、轟木村助右衛門二も老吟味帳申付候

一金□両かし主金津弥次兵衛、かり主宮谷義兵衛・清右衛門、此質高三拾石之証文御裏判指紙指上候

同十九日

一昨日布目彦兵衛二江戸表之御様子舟寄を御内意被仰越候二付、様子為窺舟寄へ参御取立等之儀申上、罷帰候節下関利兵衛方へ立寄吉右衛門長百姓中相尋候へハ、御米之儀二付三国へ参由申二付、利兵衛二御取立之儀并老吟味帳之事申渡し罷帰り候
一舟寄二而最前当座かり式両之金子返濟申候
一東善寺村久兵衛・長七出入嚙二而相濟申二付礼二参候由
一戌年御成ケ御勘定帳舟寄をかり取参候

六月
同廿日

一金三両

かし主金津平野や四郎左衛門
かり主高つか村庄や市郎右衛門

右ハ御裏判奉願候二付指紙指上候
一与中庄屋長百姓寄合、舟寄かりわり并二引かへ物等吟味之上指引盛仕候、次而二熊・猪・狼御仕置書之判形取申候、并御年貢之事、かけやかり方之事申付候

同廿一日

一下関・轟木・笹岡・矢地此四ヶ村十日切之御金不納之由御配符被遣候付右村々申遣し候、笹岡村へハ自分参百姓前不殘詮儀いたし候処、かけやかり御年貢金之内二而拾四両老歩、廿二日・三日両日之内請合候二付、其通舟寄へ廿二日二御断申上候

同廿二日

一村々廿日切之御金早々上納可申候、廿四日□御金江戸へ被遣候由御配符被遣候二付早々村々申触候
一下関・轟木・矢地庄や長百生「」二付、跡を権右衛門舟寄へ遣し候て御わ□(ひ申カ)上庄や共めしつれ罷帰り候、権右衛門舟寄へ参付不申候内二、矢地・笹岡・北村十日切納不足有之二付御配符被遣候へ共、権右衛門御断申上候二付其通いたし候
一菅野村庄や長百生廿日二不参候付配符遣し候へハ、漸今日参何角と断被申候二付其通二いたし候

同廿三日

一 かけや忠兵衛廿四日ニ大坂へ参候由申来候付、笹岡村かり金今日之内ニ相济候様ニと権右衛門ニ申遣候

一 北村五兵衛、前谷市兵衛ニ自分御年貢金并金子かし申二付、帳手形別紙ニ記し置申候、為覚^(如)此二候、内壹両悪金之由北村^〆〆〆
一 前谷村^〆御金舟寄へ指上候〆〆下関村与三兵衛上乘証文同人親類証文指上候

預り申金子之事

合金式拾両也

右之金子髓預り申処実正ニ御座候、方〆貸付則証文を取此預り手形と引かへ可申候、尤世間並之加利足来ル暮中ニ元利不残取立返済可申候、為後日預り手形仍如件

元禄八年亥六月廿三日

土屋次郎左衛門印

森平太左衛門殿

一 下関村御金せんきニ今はん可参由申「」 「」追付下関村へ参惣百姓ニ申渡候ハ、未進金当月晦日迄ニ相济申分一段之事、若少ニ而も朔日へ越候分ハ高を切取申候間、晦日切ニ「」 「」相济可申候、為届かたく申渡し候、さて庄や長百姓人しち之儀ハ明廿四日之取立之様子ニ^〆、廿五日二人しち「」 「」之由かたく申渡、夜通しニ罷帰候

一 上関次兵衛ニ藤太夫様書状上ケ候

一 轟木助右衛門ニ金式分かし申候、当座かし二候

同廿四日

一 黒毛四才馬壹疋、黒毛五才馬壹疋、ノ式疋、馬主馬場弥次兵衛板取口通手形

一 栗毛四才馬壹疋、黒毛四才馬壹疋、ノ式疋、小荷駄、馬主菅野半右衛門板取口

同廿五日

一 廿三日ニ北村^〆金壹両悪金之由返シ申金子、かへ候而五兵衛ニ渡し申候

一 矢地村靈順妻最前指上置候訴状取次候様ニと申二付、御取立最中二候へハ今少相待候様ニと申候得共達而願申付、右之せんき之様子御断之指紙舟寄へ為持遣し候
一 矢地村庄や長百姓呼寄御取立之儀かたく申付候

一 笹岡村右同断、当晦日切ニ金拾両式分請合申二付其段舟寄御断申上候

一 下関村へ参、請合金吉右衛門・七右衛門・長右衛門安兵衛妻子共人質ニ舟寄へ遣し候様ニと申付証文取置候
一 轟木村右之せんきニ而助右衛門母・長右衛門倅人質ニ舟寄へ遣し候、証文取置候

一 布目へ参泊り候、仲之進殿同道ニ而

六月
同廿六日

一 布目彦兵衛・仲之進殿同道ニ而竹松ノ三国へ参、下関与三兵衛上
乗証文青山藤太夫様へ指上、麦や太兵衛方泊り罷有

同廿七日

一 与下御廻米半米拾壹表九升代銀指引いたし、出村甚左衛門相渡し
証文取置候、則金壹両壹分相渡し候

同廿八日

一 金貳分、畳床拾壹代銀錢ニ而拾五匁、□木代銀ニ出村甚左衛門へ
相渡し候

同廿九日

一 三国ノ今日罷帰り候

一 矢地靈順ニ妻訴状之返答被仰付候ニ付靈順ニ申付候

一 御取立之儀ニ付度々御はいふ被「一」付、村々庄や長百生明

早天ニ被参候様ニとはいふ遣し候

一 三国ニ罷有候内ニ大牧三大夫方ノ状式通、年内金子之事申こし候

同晦日

一 村之庄や長百生参候付、御金納残り之分日切請合判取申候

一金四両、かし主滝村太兵衛、かり主青野木庄や長百生、質高五拾
石之証文、御裏判付願候付指紙遣し候

一 山田安兵衛様明日丸岡ノ御立被遊候ニ付、見送りニ罷出候様ニと
「一」左衛門ノ手カミ「一」直ニ参候「一」遣し候

一年五十女老人、下関久右衛門妻
一年五十女老人、同村□右衛門母

一年四十八女老人、同村太右衛門妻
メ三人 此手形問ニ合不申候ニ付□(消カ)申候

右ハ伊勢参宮手紙遣し候
一金壹分、平太左衛門様ノ請取、内拾四匁茶廿斤代十楽村彦四郎へ
渡ス、三匁式分ハつり返ス

一金三両、笹岡村庄や長百生ニかし
一金壹両、同村彦三郎ニかし

七月朔日

一 山田安兵衛様并小出加兵衛様丸岡ノ江戸へ御出立ニ付御見送

「一」安村迄罷出候へ共遅参ニ付不懸□(御カ)目、寄安村ニ而川原

彦左衛門様御目ニ懸り、村々御取立請合之段々帳面を以申上候、

勘介様へも可被懸御目候間、帳面指置候様「一」候付「一」

置候、其座ニ而下関村人質之事「一」度々御詫言申候得共、

二郎左衛門方ノ□(ワカ)ひ無之候ニ付不被御免候、当四日ニ御金余程指

上可申と申候間、御わひいたし人質□(返カ)し候様ニと善右衛門被申ニ

付、尤之儀二候へ共十日切・廿日切之御金廿三日迄指上不申候二

付、早々人質を差遣し候様ニと舟寄を被仰越候間、下関へ参小百

姓迄呼寄段々せんきいたし候処、「(可申カ)」至極仕廿五日ニハ御

金余ほと指上□□候間、廿五日迄人質を御わひいたしくれ候様ニ

と断申二付、庄や長百生願之通ニいたし罷帰候而廿五日ニ御金之

吟味仕候へハ、利兵衛与ニ金七両壹分、吉右衛門・七右衛門両与

ニ而金五両取立置候由申二付、利兵衛与ハ人質を免し、善右衛門・

七右衛門両与る人質四人遣し候処、御金之取立之次第をも不申、

まして人質之わひも不仕、廿五日も今日迄下関之者共我等方へ不

参候へハ、様子不存候二付而御わひ申上候事不罷成候、我等与下

之儀者書状をも以我等方を頼候迄ハ其通被成候様ニと、彦左衛門

様ニ而善右衛門ニ物語いたし候へハ、彦左衛門様も尤至極二候へ

ハ、二郎左衛門指図次第二いたし候様ニと被仰候

一寄安ニ彦左衛門様へ御暇乞いたし、松岡鍋や九郎右衛門方へ参様

子相談いたし罷帰候

一靈順呼寄御年貢金之事申付候

一轟木・下関昨晦日ニ可参処何とて不参候と配符遣し□候

七月二日

一前谷市兵衛と指引さん用相済申候付、御廻米自分過米代銀式弎七

分三厘、此米五升三合分市兵衛ニかし、重而さん用ニ入可申筈

一年六拾女壹人 下関村太左衛門妻

一年五十□女壹人 同村加右衛門妻

一年五十四女壹人 同村長右衛門姉

一年五十女壹人 同村弥五兵衛母

一年三十五女壹人 同村二郎右衛門妻

一年五十女壹人 同村久左衛門妻

一年五十女壹人 同村理右衛門母

一年四十八女壹人 同太左衛門妻

一年五十七ノ女壹人 同村七右衛門□

右ハ伊勢参宮板取口通手形証文指上、七月五日之日付

一下関村御金之吟味仕請合証文取置候付、人質御詫言之指紙舟寄へ

指上「(可申カ)」

一田中村の紛敷証文ニ御裏判願候二付返し申、則庄や長百生方を証

文取置候

一轟木村御金之義庄や長百生ニかたく申付候

一笹岡村宗左衛門ニ御金之事堅申付候

七月三日

一年式拾七女壹人 宮谷村権「」娘

一年廿式 女壹人 同人 娘

一年廿壹 女壹人 同村 清右衛門娘

右伊勢参宮板取口通手形下証文、七月四日之日付

一高式拾石 かし主金津坂下吉三郎

かり主「兵衛

清右衛門

此金三両貳分

右之証文□御裏判奉願候

一金□分、前谷村伝右衛門ニかし証文取「」

一前谷市兵衛舟寄へ参候付、熊・猪・狼之証文并ニ書状相添指上候

一年五十八 女老入 下関村吉兵衛妻

右伊勢参宮板取口通手形下証文指上ル、七月四日之日付

一舟寄善右衛門・長田喜左衛門・下兵庫武兵衛三人の、早々舟寄へ

参候様ニと手紙村次ニ而被□越候付舟寄へ参候へハ、何れも与頭

中会合ニ而従江戸山田勘介様・川原彦左衛門様・戸田武右衛門様

被召寄候ニ付、御代官所村々庄屋長百姓御用ニ付、明日舟寄へ参

候様ニとはいふ遣し候由被申候、右三人之御役人中江戸へ被召寄

御「(五味豊法・舟寄代官)」五味小左衛門様去年迄御支配被遊候伊豆国御代官所

之者共野沢吉左衛門様へ「」申ニ付、吉左衛門殿八年内籠

舎被仰付御詮儀之内、六月三日ニ小左衛門様(閉カ)門被仰付、同廿六

日ニ吉左衛門殿(殿カ)罪ニ被仰付、同廿七日ニ小左衛門様遠嶋被仰付

候由取沙汰ニ候

七月四日

一金拾壹兩三分銀拾四匁六分八厘 宮谷村

一金七兩貳分銀七匁五分 高塚村

一金貳拾貳兩貳分銀七分九厘 山室村

一金拾九兩三分銀七匁四分壹厘 中川村

一金六兩銀拾四匁六分七厘 田中村

一金□兩三分銀五匁三分壹厘 北村

一金三兩銀四匁三分壹厘 北里村

一金壹兩壹分銀拾貳匁六分七厘 前谷村

一金貳拾四兩銀四匁七分壹厘 笹岡村

一金拾貳兩壹分銀八匁貳分八厘 矢地村

一金拾八兩三分銀拾壹匁四分九厘 菅野村

一金拾四兩壹分銀八匁八分三厘 青野木村

一金三兩貳分銀拾六匁八分六厘 清王村

一金六兩貳分銀拾四匁七分八厘 十楽村

一金壹分銀七匁三分式厘 西方寺村

一金貳兩壹分銀拾三匁九分式厘 新用村

一金壹兩貳分銀拾壹匁六分八厘 馬場村

一金貳兩壹分銀八匁九厘 東善寺村

一金三兩銀拾四匁四分壹厘 谷島村

一金拾四兩貳分銀貳匁貳厘 轟木村

一金五拾六兩銀六分式厘 下関村

ノ式百三拾七兩壹分銀拾壹匁三分六厘

右者戌御年貢金年内の上納之分、通手形を以村々庄屋指引御算用

仕、未進金之合ニ判形仕指上候ニ付、与頭中奥判仕指上申候

一 戊年江料米御算用ニ立請取申由、与頭中判形仕指上候

一米六斗五合 中川村

一米四斗七升 田中村

一米式斗五升五合 北野村

一米九斗 笹岡村

右ハ亥春川除御普請扶持御算用立、請取申由与頭中判形仕指上候

一 御代官所中亥春御普請被仰付候伏樋・掛樋帳并川除御普請帳写

「一」陣屋の写申候

一 稲葉平右衛門様御手代寺岡宇左衛門様・吉田斧右衛門様、(古郡文明・稲葉勝行・石田代官)古郡文

右衛門様御手代渡辺団右衛門様・尾花園右衛門様へ御目ニ懸り候

七月五日

一 吉田斧右衛門様・尾花園右衛門様御改ニ而、右村々未進金ニ庄屋

共判形御取被成候、与頭中□判形いたし候

一 村々庄屋共ニ御用候間、明日迄留置候様ニと右御兩人被仰付候

七月六日

一 山田勘介様・川原彦左衛門様・戸田武右衛門様明六ツ御立被成候

指上申一札之事

今度五味小左衛門様御手代山田勘介殿・川原彦左衛門殿・戸田武(五味豊法・舟寄代官)

右衛門殿江戸へ被為招呼候付、小左衛門様御代官所中騒動不仕諸

事御用向大切ニ相勤可申候、尤御林□竹木等猥ニ伐荒し申間敷旨

各「一」被仰付奉得其意候様、小百姓「一」右之趣急度申

付堅相守可申候、為其一札指上申候、以上

元禄八年亥七月 「一」庄屋印

吉田郡村々庄屋印

大野郡村々庄屋印

与頭中不残判形仕候

古郡文右衛門様御手代 渡辺団右衛門殿

尾花園右衛門殿

稲葉平右衛門様御手代 寺岡宇左衛門殿

吉田斧右衛門殿

一 七月三日之夜の同六日之晩迄舟寄鍋屋加左衛門方ニ罷有、今日罷
帰候

七月七日

一 高塚村の盛銀持参、菅野甚左衛門・笹岡彦三郎庄屋代ニ為見廻参

候

覚

一 御米壹表 菅野村 長右衛門

一同壹表 同村 利兵衛

一同壹表 下関村 弥右衛門

メ三表池野上徳左衛門蔵ニ而俵□替り(色)

一同三表 下関村 □右衛門

一同壹表 山室村 仁右衛門
一同壹表 同村 六左衛門
一同貳表 同村 次兵衛

ノ七表河内屋藏ニ而俵色替り

右之米船頭、御米宿立合之者立合吟味仕候□撰出し候故、壹表ニ付錢銀五分八厘ニあつらへ仕直シ候間、代銀早々三国河内屋迄今明日之内ニ持参候様ニと申来候

七月六日

上関村次 兵衛印

森川村次 右衛門印
河内屋二郎 右衛門印
池野上徳 左衛門印

御与頭二郎左衛門殿
右之書付七日夜村次ニ而相届候ニ付村々へ八日ニ申遣し候

七月八日

(稲葉勝行・石田代官)
一 稲葉平右衛門様へ今度五味小左衛門様御仕合ニ付而御役人衆舟寄

へ御出被成候ニ付、丸岡迄参「」高木織右衛門様へ御意得申候、就夫何れも与頭共被召寄証文御取可被成候処、幸之儀ニ候間此証文之通村々吟味、村々庄屋長百姓判形を取、平右衛門様へハ我々判形指上候様ニと被仰付候

指上申一札之事

五味小左衛門様并手代中へ対シ、金銀米錢衣類諸道具何ニ而も貸借預ケ・預り物有之哉と御尋ニ御座候、拙者共組下村々庄屋・長

百姓・小百姓迄吟味仕候処、預ケ・預り物ハ勿論金銀米錢貸借指引等一切無御座候、若金銀之儀ハ不及申上ニ少々物成共貸借指引等御座候を隠置後日ニ相知候共、拙者共何分之曲事ニも可被仰候、為其一札仍如件

元禄八年亥七月

坂井郡 与頭中印
吉田郡 与頭中印
大野郡 与頭中印
能州 与頭中印

一 森平太左衛門様宅御立被成候ニ付、家来「」家屋敷ニつかへ申ニ付、善右衛門家為引料と銀六匁平太左衛門様被下候由ニ、今日家立かへ申候

七月九日

一 銀五匁八分壹厘、北野村ハ権右衛門預り置申候
一 銀七匁菅野半右衛門、銀壹匁三分壹厘同村久左衛門、銀貳匁六分七厘同村十右衛門、ノ拾匁九分七厘権右衛門預り置申候、指引ハ帳面ニ有

一 今日与下村々庄屋中右之証文判形取申候、則与頭給之事申渡し候
一 後山茂右衛門殿同道ニ而布目へ参候へハ、武兵衛・喜左衛門布目ニ而あい申ニ付三国へ同道いたし参候

同十日

一三国の罷歸候而布目ニ泊り申候

七月十一日

一丁銀拾壹匁四分五厘、金壹「」山室村の権「」預り置申候、帳面ニ付申候

一布目の宿へ罷歸り候

一栗毛三才馬高塚村「」金貳兩ニかい申候

一丁銀貳匁五分七拾錢拾「」匁青野木村盛銀并ニ与頭半給ニ請取申候、

重而指引可仕筈、式口ノ丁銀拾八匁貳分五厘之内ニ而七匁五分九厘ハ亥春の夏迄之与頭給青野木本村分ニ請取、残而拾匁六分六厘

盛帳置有之候

一丁銀壹匁貳分与頭給銀西方寺村の入、盛銀八十楽五十郎へ相渡し申由

一戌御年貢金之内六兩三分銀拾四匁貳分、青野木村未進金之由

一出村半左衛門かし金、指引本庄道休と仕候

七月十二日

一出村甚左衛門方書出し銀拾五匁、畳床拾壹銀貳拾七匁五分、正木拾挺銀壹匁、石塔之運賃銀銀五拾匁、詭米之内ノ九拾三匁五

「」拾四匁四分、六月廿七日ニ金子ニ相渡ス、三拾四匁四

分七月十一日ニ金子ニ而相渡ス、式拾匁七月十二日遣「」

渡ス、式匁六分さわや方指引、残而相渡し申候

一善四郎二錢をもたせ遣し、金津ニ而方々払申候

一矢地村油屋方木之実壹斗四升代銀四「」代銀壹匁三分書出し遣し申候

一高塚村の錢銀拾五匁、遣八左衛門ニ「御カ」持「内」銀ニ「拾」貳匁五分壹厘与頭給ニ請取、残而六分壹厘盛銀之内ニ請取申候

一舟寄鍋屋加左衛門の算用目録、酉ノ年拾三泊り此銀拾七匁八分、

下人八泊り半此銀八匁五分、銀七匁分万かい物代、ノ三拾三匁

四分内ニ而銀八匁兩度ニ渡ス、残而貳拾五匁四分、次ニ亥春の同

夏迄拾三泊り此銀拾七匁八分、下人貳泊り式匁、銀拾匁壹分四厘万かい物代銀、惣ノ五拾五匁三分四厘、内式拾匁七左衛門ニ相渡ス

ス

一銀壹匁四分七厘青野木分清王権兵衛、銀壹匁青野木分九右衛門、五匁壹分清王村兩与盛銀、ノ七匁五分七厘権右衛門預り置申候、

帳ニ付

一金津市へ參候

一舟寄善右衛門方盛銀之事ニ手か「紙」布目の參、後山へ十四日ニ遣し候

一青山藤太夫様・室田久右衛門様宗旨御改判取様ニと御はいふ被遣候付、後山へ十四日ニ遣し候

一三国立合中色か「(麥)」ハリ俵之事手紙參候

一五味(五味豊法・舟寄代官)小左衛門様并御手代衆中へ対し、金銀米錢・衣類・諸道具何

不寄指引等有之候ハ、申上候様ニと、村々御尋之旨(稲葉勝行・石田代)稲葉平右衛門

様^宣の被仰付候二付、当月七日二右之趣村々へはいふ、同九日二村々

五十郎

庄や罷出有無之返事申上候様ニとはいふ遣し候処、下関村庄や共
斗九日二不参候二付、又十日ニ配符遣し候へ共不参候故、十二日
二又はいふ遣し候へハ、漸十三日二庄や利兵衛倅平右衛門斗参候、
右之段々慥ニ相届、証文ニ判形を取申候

一下関村七右衛門印判持参候様ニと度々申遣候得共、不参候二付長
百姓「」呼寄候て庄屋判形御取被成候得共、七右衛門不参
候付いか様之子細ニ而七右衛門不参候や、御急用之証文遅々仕申
「」無之候故、無是非其方呼寄候と段々申聞口書取申候

同十四日

七月十五日

一下関村吉右衛門名代として小百姓之内七右衛門と申者ニ印形斗為
持遣し候二付、右之趣為申聞七右衛門口書取置申候、其座ニ東せ
んし宗右衛門有合様子承候

一舟寄善右衛門の最前仕候盛之儀、懸吟味を割直し可申候哉、相談
次第二仕、銀子相済候様ニといつれも与頭中へ廻状参候

一舟寄わたや七兵衛方の年内の指引書出しニ、書状為持下人三吉
と申者遣し候二付、銀六匁二分不残三吉ニ相渡し申候

七月十七日

一銀七匁三分五厘十楽村盛銀、并銀六匁七分四厘亥春の夏迄与頭給

同十八日

銀三匁九分六厘青野木村分十楽村「」銀三匁八分青野木村

同十九日

分十楽村□□り之与頭給、銀五分春さん用之不足、メ式拾壹匁七
分五厘、此内ニ而錢銀式匁四分彦四郎のかい「」之銀錢式

一本庄へ寺参いたし、夫の布目□参彦兵衛と同道ニ而三国麦や太兵
衛方ニ泊り候

匁八分五十郎のかい申茶之代銀、五匁二分戌暮舟寄へ指上候門松

同廿日

四飾分残銀、メ拾匁四分、此丁銀九匁七分、丁銀拾五匁、又右衛

同廿一日

門庄屋をこほち申候御用銀ニ青山藤太夫様被遣候を算用ニ立請取
申候、メ丁銀式拾四匁七分ニ而右式拾壹匁七分五厘引取、式匁五
分九厘西方寺村盛銀引取、残而式匁四厘不足ニ而残相渡し申候

同廿二日
一大風吹申候

十楽村庄や
彦四郎

同廿三日

一三国の罷歸り候、宮谷村・青野木村・十楽村・清王村大風ニ而作痛之由断ニ参候

一東善寺村住宅被致候丸岡浪人衆之請状・寺請状共ニ庄や持参候

同廿四日

一当月五日ニ於江戸六倉与兵衛様御代官(舟寄代官)ニ被仰付候由、舟寄善右衛門方の後山・前谷村へ手紙ニ指越候ニ付、其手紙布目へ遣し候

同廿五日

一六倉与兵衛様御手代衆

高嶋太次兵衛殿

神田喜兵衛殿

木内八九郎殿

奥津滝右衛門殿

高嶋藤四郎殿

横田数右衛門殿

右之通後山源兵衛江戸を被申越候由、後山村茂右衛門を被申越候
付布目へ申遣候

一廿四日ニ布目へ遣し候状、村次道ニ而封を切内見之様ニ相見得候
由被申越候ニ付、村々吟味仕候へハ御簾尾村之あるき、道ニ而た
をれ候而濡申ニ付、包紙損申由断ニ七郎兵衛参候

一御代官代り丸岡足知之儀ニ付数通之状布目を参候

同廿六日

一於江戸ニ六倉与兵衛様、(五味豊法・舟寄代官)五味小左衛門様跡御代官ニ被仰付候由ニ付、何角為相談之彦兵衛被参候而茂右衛門殿も被参候

一舟寄善右衛門を書状被遣候

七月廿七日

覚

一米壹万式千九百九拾三表 但四斗入

此石五千百九拾七石式斗

右ハ丸岡領去戌年貢米之内、此度於三国湊ニ入札を以御払ニ被仰付候、望之者於有之ニハ入札相認、御米百石ニ付質金五両宛相添、来ル八月二日三国蔵元へ持参可有之候、但米見分仕度候ハ、朔

日迄之内蔵元ニ指置候役人方へ相達可申候、以上

亥 七月廿七日
(馬場量重・越後川浦代官)
馬場新右衛門 印
(稲葉勝行・石田代官)
稲葉平右衛門 印

入札仕様

指上申入札之事

米高壹万式千九百九拾三表
一米壹石ニ付丁銀何拾何匁何程宛

但 両かへ六拾匁金壹両ニ付銀三分ツ、上小判歩銀指上可申候、
御米ハ壹表ニ付四斗入之積り、蔵口俵儘請取可申候

右者丸岡領戌年貢米、於三国蔵ニ御払入札被仰付如此札指上申候、

拙者落札ニ御座候ハ、右之直段ニ御買請仕、早速代金指上御米不
残請取可申候、為後日仍如件

元禄八年亥八月二日

越前国何之誰御代官所何郡何村
何之誰

右同断

請人 何之誰

稻葉平右衛門様

馬場新右衛門様

右之外ニ舟寄善右衛門方何角手紙参候、高木織右衛門殿御廻状
并青山藤太夫殿・室田久右衛門殿御廻状、右御米入札之段々被仰
越候

一高瀬・四ツ柳・四郎丸・正蓮花四ヶ村、沖布目・福嶋・若宮・北
横地之内ニ而式百石余切出し之由、寺岡宇左衛門殿御廻状御内
証ニ被遣候、則後山へ遣し申候

一稲葉平右衛門様御支配下風損御見分のため在々へ御出候而、今日
大牧ニ御泊ニ付彦兵衛・後山平介同道ニ而参、吉田斧右衛門殿へ
我々与下も御一覽被成被下候様ニ願候へハ、(舟寄代官)宍倉与兵衛様御手代
衆兩人当月十八日ニ江戸御出立候而、廿八・九日ニハ御着ニ候間、
其通申上候様ニと御申ニ付、早々罷立御迎之相談仕、舟寄善右衛
門ハ明日廿八日未明ニ罷出、御手代衆ニあい次第可被参候、残与頭
共ハ明日福井泊り仕、夫を承合すへ可参候と後山平介を以舟寄
へ申遣候、彦兵衛・自分ハ宿へ罷帰後山其通申遣候
一右両用之段々与下村々へはいふニ而申遣し候

七月廿八日

一宍倉与兵衛様御手代中為御迎ニ今日罷出、舟寄通参福井吉兵衛方
ニ与頭中老所ニ泊り申候

同廿九日

一福井を罷出府中へ参、大津屋彦左衛門方ニ泊り申候、御役人中
府中へ御着ニ而木内八九郎殿、小木仙右衛門殿へ御目ニ懸り候
八月一日

一府中を罷立、御役人様を先立候而舟寄迄罷帰、加左衛門方ニ宿り
申候

一府中ニ而金沓分銭沓中間ニ出候

一舟寄ニ而諸帳面案文御出し候ニ付面々写取申御用ニ付罷有候

同二日

一右之御用ニ而舟寄ニ罷有候、未進金当月迄ニ相済候様ニと御配
符遣申候

同三日

一右同断

同四日

一右同断

一 お三煩二付後山へ参舟寄へ帰ル

同五日

一右同断

同六日

一舟寄を罷歸り候

一与下村之庄屋中明日前谷迄参候様ことはいふ遣し候

同七日

一与下村之庄屋中寄合被申二付諸帳面之儀申渡候へハ、何とぞ書立

させくれ候様にと被申二付、仲之進殿・宮谷村義太夫・伝右衛門

三人ニか、せ申候

同八日

一右帳共書申候

同九日

一笹岡宗右衛門・九右衛門、称運寺屋敷除地ニ而無之由村を付上ケ

候へ共、除二候由右三人を断二候付笹岡村へはいふ遣し申候

同十日

一宗左衛門・助右衛門・七右衛門参候而、除之儀不存候、刁ノ年与

頭中村彦三郎被参候而、右之屋敷へ竿ハ入被申候へ共村を判形不

仕候、夫を御代官様除地御改之儀不存候と申候

同十一日

一右之諸帳面今日迄二書仕廻候而村々判形取申候、笹岡村斗相濟不
申候

一明十二日ニ御代官様御迎ニ可参由何も申合候二付、今日舟寄迄可

参と申罷出候へハ、江戸御発駕相延当六日江戸御出立之由、舟寄

善右衛門手紙遣し被申二付罷歸り候

八月十二日

一式拾ケ村々差出候証文帳舟寄へ持参指上候、次二丑ノ年御年貢員

数知不申候との証文案文被遣候二付、いづれも与頭中へ申ふれ候、

則舟寄を罷歸り候

一村々庄屋長百姓判鑑帳指上申候、留帳無之候

同十三日

一人馬改帳書申候

同十四日

一清王照嚴寺様へ表具屋参候ニ付為相談之参候、布目彦兵衛も願之
九字御下りニ付今日清王へ被参候

一〇七日ニ御代官様江戸御出立之由舟寄善右衛門を廻状被遣候、則
十五日ニ布目へ遣し候

同十五日

一笹岡村指出候帳笹岡之人足ニ為持舟寄へ遣し候

一菅野門樋仕立ニ福居木やを大工遣し候処、材木悪敷候ニ付吟味、
木や名代五兵衛・両人之大工共ニ証文為致候

一材木改之ため権右衛門菅野へ遣し候

一上関・下関・河原井田・轟木此四ヶ村当作悪敷候由、次ニ前谷・
後山与頭遠方ニ而其上川瀬も御座候ニ付、御用以下之支ニも成候
間御組かへ被下候様ニと昨日書付認舟寄へ持参候由、下相談ハ轟
木助右衛門方ニ而仕候由書申ハ、三国ニ而書申由ニ候

同十六日

一高人数牛馬改帳并丑ノ年御取ケ知不申候との証文、両通ニ判形取
申候

一指出し証文帳之下帳、宮谷義太夫ニ言伝舟寄へ指上候

一御代官様十九日ニ御至着^到之由、村之庄や御迎ニ罷出候事無用之由、
并御未進金早々申付相済させ候様ニと御配符被遣候ニ付、判形い
たし末へ送り候

八月十七日

一御代官^{舟寄代官}倉与兵衛様為御迎と罷出、古市町石森屋与三右衛門方ニ
泊り罷有候、後山善兵衛・布目彦兵衛同道ニ而

一丑年御取ケ知不申候証文指上申候

同十八日

一舟寄善右衛門古市迄被参候而、今晚水落ニ御泊り之由送り状参候
由被申ニ付、何も当郡与頭中待揃水落迄参候へハ、与兵衛様ハ石
田へ御越之由ニ而御帰りを相待御目見得いたし候へハ、早々罷帰
戌未進金せんきいたし早々取^立候様ニ^と被仰付候ニ付、十八日之
夜通ニ福居迄参、木田新町ニ与頭中同心ニ而泊り罷有候

同十九日

一与兵衛様舟寄へ御着被遊候ニ付長崎村拔迄近迎ニ罷出候、同晩ニ
与頭之分ハ上下ニ而御目見得被仰付候、其外在々諸々御目見得可
仕百姓ハ、御検見之節其村近所ニ而御目見得願候様ニと被仰付候、
御供之御手代衆ハ奥津滝右衛門殿・高嶋藤四郎殿・横田数右衛門
殿・洪垂助左衛門殿ノ四人、御侍衆三人中小性衆壹人、御家老大
隅九太夫殿

同廿日

一 郷村御改帳之案紙帳、当郡壹冊書上ケ候様ニと被仰付候故自分方
の書上ケ申候、是ハ紙代書賃郡中ニわりニ罷成筈ニ候

指上申証文之事

一 何之何某

一 何之何某

右ハ丸岡浪人当村ニ由緒御座候付引越申度由ニ而、先御代官(五味
豊法・舟寄代官)
小左衛門様御役人中へ段々御断申上、村中連判手形指上置、右浪

人之儀ハ慥成請人為立証文并寺請状拙者共方へ取置、当何日ニ何
村ニ引越住宅為仕候、何時ニ而も御尋之節証文共指上可申候、右
浪人之儀ニ付何方も何之構も無御座候、其上自今以後如何様成
六ケ敷義出来仕候共、拙者共罷出急度申分埒明ケ可申候、為後日
証文指上申処仍如件

年号月日

何郡何村庄や

たれ 印

長百姓

たれ 印

惣百姓代

たれ 印

御代官様

右文言壹紙証文ニ而東長田喜左衛門与下指上候而相濟申由ニ候故
写し置候

同廿一日

一 越前国中之絵図仕指上候様ニと被仰付候ニ付、牛首村作左衛門と
申絵師ニか、せ何も与頭中手伝罷有候

覚

一 女御関所を罷通候ハ、其村之庄や長百姓証文ニ与頭奥書仕判形指
上申候ハ、(御役人方)様方ハ福居町御奉行衆へ御手形被遣候、町御奉
行衆ハ御関所へ通り御切手被遣候、罷歸候節右之証文段々取返し

最前町御奉行衆へ被遣候御手形返上仕候

一 馬御関所通シ申候ハ、右之通其村庄や長百姓証文ニ与頭奥書判形

指上候ハ、御役人様方之御手形御関所御番人方へ直ニ被遣候、

福井町御奉行衆御判鑑被遣置候、以上

元禄八年亥八月

当郡与頭中

印

御代官様

一 村々庄や長百姓舟寄呼寄、戌未進金吟味之上段々日切請合帳ニ庄
や長百生判形を取指上候、尤留帳有

八月廿二日

一 宮領村伝左衛門、下関村喜兵衛、昨廿一日ニ中川ニ而口論出入仕、

伝左衛門打擲ニ相申由東長田村喜左衛門断被申ニ付、右之喜兵衛

并方人之者めしつれ庄や長百生中舟寄参候様ニと、下人喜八ニは

いふもたせ遣し候へハ、右之いさかい之儀ニ付権右衛門方ハ呼申

ニ付、前谷へ庄や長百生右之喜兵衛めしつれ参候由申越候ニ付、

早々前谷方直ニ舟寄へ参候様ニと喜八を遣し候

奉願御裏判之事

合金何ほと

右ハ拙者与下何村戌御年貢御未進金之内、誰様御知行所何郡何村誰金子預り残金上納仕候、先御代官様誰様御代官所之節も、御役人様御裏判ニ而金主方へ証文入置候、此度も御裏判被遊被下候様ニ奉願候、返濟之節滞無之様ニ吟味仕置候ニ付、拙者添証文指上申処仍如件

年号月日

何郡何村与頭
たれ印

木内八九郎様

金銀かり証文吟味之上右之通証文与頭方を出し候ハ、裏判可被成由ニ候

覚

一何毛何才之馬走正

何村持主
誰印

右之馬何月何日病付候ニ付、馬医何村誰療治ニ而養生いたし候得共本服不仕、当何日ニ落申ニ付庄や長百生方へ相断候ニ付、拙者共立合吟味仕置候処少も相違無御座候故、当村何と申所ニ埋置申候、以上

年号月日

何村庄屋
たれ印
何村長百姓
たれ印

拙者共与下村々之内ニ而病馬落候へハ、右之通之証文与頭方へ取置候様ニと先御代官様方之時分被仰付候、此以後如何可仕候哉と奉窺候へハ、向後も先例之通与頭方へ証文取置、組下村方ニ而も毛付帳ニ委細書之、付札いたし置候様其時々ニ急度可申渡旨奉畏

候、以上

亥八月

坂井郡
与頭六人之印

御代官様

右之通書付判いたし指上候

八月廿三日

覚

一御口米御取立之儀、松田又兵衛様・平岡吉左衛門様・諸屋内蔵之介様御支配之節ハ半納之分ハ金納御直段、半米納之義ハ米納御直段御取立被遊候、都筑長左衛門様も右之通ニ御坐候へ共、御支配八年之内兩年ハ米地抔高直ニ御座候ニ付、百姓方を願上候而金納直段ニ指上申候、次ニ稻葉平右衛門様(稻葉勝行・石田代官)・古郡文右衛門様(古郡半明・鱈江代官)、御取立之様子ハ不奉存候、五味小左衛門様(五味豊法・舟寄代官)ハ不殘金納直段ニ御取立被遊候

一御関所上口ニ板取・二ツ屋、下口ニ細呂木、此三ヶ所ハ往還筋ニ而女并馬度々他国へ罷出候付通御手形申請候、但女ハ御手形福井町御奉行(渥美友信・福井藩寺社町奉行)渥美新右衛門殿へ被遣候、右三ヶ所之外ニ若狭口ニ今泉、美濃口ニ穴間、加賀口ニ山竹田・同市野々・同浜坂、此五ヶ所ハ福井御領ニ而御番人福井を御居置被遊候、并美濃口ニ笹ノ股と申所之御番所ハ土井甲斐守様御領ニ而則番人御居置被遊候、加賀口牛ノ屋と申所之御関所ハ有馬左衛門佐様御領ニ而則御番人ニ御居置被遊候、右七ヶ所ハ脇道ニ候故女并馬通り御手形終ニ不奉願候、

右之外白山麓ニ他国へ罷出候関所三ヶ所ハ牛首村を委細可申上候、御判鑑之儀ハ福居へ被遣候様子我々分明ニ奉存候

一宗門御改帳村々出来次第段々指上可申候、以上

亥八月

坂井郡
与頭六人之印

御代官様

一国中之絵図出来申ニ付指上候

一宮領村伝左衛門訴状指上候ニ付、下関喜兵衛ニ返答いたし廿六日

ニ罷出候様ニと被仰付候

八月廿四日

一御代官様右之絵図御披見ニ付当郡与頭共不残罷出候へハ与頭給之

儀御尋被遊候付段々申上候

一丸岡浪人衆鉄炮ニ村庄屋我等符を付置申「」候

覚

一鳥獵場御運上銀、寅ノ年を五ヶ村七ヶ村々地之上組合手寄次第ニ

入札被仰付、落札次第ニ御運上銀指上獵仕候処、鳥たしなく候ニ

付申ノ年を以来入札仕者無御座候へ共、其段御訴不及申上村切ニ

右御運上銀ニ応シ相弁指上申候、就夫去年も入札被仰付候へ共入

札仕者無御座候間、御運上銀御減少被遊被仰付被下候様ニと奉願

候得ハ、入札仕者無之段委細御尋之上御運上銀御免被為成被下候、

以上

亥八月

坂井郡
与頭六人之印

御代官様

寅年を戌年迄御直段付

一寅年米壹石二付 銀四拾三匁 金納
銀四拾貳匁五分

但、卯ノ年ハ米納五分下り

一卯年米壹石二付 (銀三拾八匁四分七厘 金納
銀三拾六匁四分七厘 米納)

卯を米納貳匁下り

一辰年同 (銀三拾六匁六分七厘 金納
銀三拾四匁六分七厘 米納)

一巳年同 (銀三拾壹匁六分七厘 金納
銀貳拾九匁六分七厘 米納)

一午年同 (銀四拾匁三厘 金納
銀三拾八匁三厘 米納)

一未年同 (銀三拾五匁八分 金納
銀三拾五匁八分 米納)

一申ノ年同 (銀三拾五匁七分三厘 金納
銀三拾三匁七分三厘 米納)

一酉年同 (銀三拾三匁六分四厘 金納
銀三拾壹匁六分四厘 米納)

一戌年同 (銀三拾六匁五分六厘六毛金納
銀三拾四匁五分六厘六毛米納)

右之通ニ御座候、以上

亥八月

坂井郡
与頭六人之印

御代官様

八月廿五日

一宮領村伝左衛門、下関村喜兵衛、何れも与頭中噯ニ而高ハ喜兵衛

取分、伝右衛門打擲仕痛申由ニ候故葉代として金三分喜兵衛方を

伝左衛門ニ相渡し申候、噯濟証文三通双方并ニ両村庄や長百生判

形ニ而取候而、壹通ハ東長田源左衛門、壹通ハ前谷二郎左衛門、

壹通御公儀様へ指上、右出入喫二而相濟申由御断申上候

一十九日の廿五日迄舟寄鍋屋加左衛門二方二罷有、今日罷歸り候

一切死丹札削直シ組切二集、御検見迄二舟寄へ指越可申事

一鉄炮之儀高札御立被成二付、捨馬之札程二こしらへ可申事

一捨馬之高札能候ハ、其儘可指置事

一油役・室役・大工役根帳可指上事

一油屋共当亥年通先年之通御役油可指上由願状上ケ可申事

一寺社其外之者御目見得ハ御検見之末二而願可申事

一在々出入対決日、朔日・六日・十一日・十六日・廿一日・廿六日

御定也

一村々田地水帳無之村ハ内檢帳之寄写シ指出し可申候

一風痛之立毛相改書上ケ可申事、次ニ村絵図仕可指上事

八月廿六日

一村々庄屋中呼寄候而右之段々申付候

八月廿七日

一右同断

一丸岡浪人衆居村の証文指上候様ニと申付候

一東善寺村甚右衛門庄屋代り之願状持参二候

一女馬通り手形御判鑑福井へ被遣候哉、為窺之宮谷義太夫ニ手紙御

陣屋指上候

同廿八日

一笹岡村廿五日切請合不足二付、庄や長百生可被召寄御はいふ被遣

候二付、庄や長百姓吟味仕候へハ廿九日ニ拾四両請合可指上由儘

二何も被申二付、其御断之手紙舟寄へ指上候

一森田市右衛門殿東善寺村浪人衆住宅之証文御持参二候

一山室村吉右衛門庄や代り之願状指上候

一刁の戌迄九ヶ年御免状、壹与切二あつめ候て紙袋ニ入舟寄へ持参候様ニと被仰付候

一水帳無之村ハ内檢帳之寄を横紙ニ而同し様ニ式通写、御検見之節可指出候

何村内檢帳之寄

一上田何町(マ)式反何ほと

一中田何町何反何ほと

一下田何町何反何ほと

一上畠何町何反何ほと

一中畠何町何反何ほと

一下畠何町何反何ほと

一居屋敷何町何反何ほと
右之通内檢帳惣寄写し相違無御座候

亥八月

何村庄や
たれ印

同長百生
たれ印

たれ印

右之案紙後山善兵衛舟寄を被申越候

八月廿九日

一 村々庄屋中呼寄風損帳・内検帳写シ申候

一 其方与下之内下関村未進金難渋ニ付□廿七日ニ呼状遣し候処于今(去)

二 不参候、如何様之子細ニ而致延引候や、せんき(詮議)の上庄や長百生

今日中ニ可被指越候、若其方申付候義不用義ニ候ハ、早々可被致

注進候

亥八月廿九日

前谷村

二郎左衛門殿

木内八九郎印

水帳とか
内検帳とか
之惣寄

何郡何組何村

田畑屋敷辻

一 高何ほと
此反歩何ほと

何町何反

田方

何町何反

畑方

反別

上田何反何畝歩

中田何反歩

下田何反歩

上畑何反歩

中畑何反歩

下畑何反歩

屋敷何反歩

右ハ当何年以前誰様御檢地帳か
百姓内檢地帳か之惣寄反歩此度書上ケ申候、尤年貢

割合之儀も此水帳反歩数拾年用采申候、若相違之儀御座候ハ、御

吟味之上何分之越度ニも可被仰付候、以上

何郡何村

庄屋

長百姓

たれ

たれ

亥八月

御手代中

一 右之通水帳ニ而も内検帳、年々年貢取立ニ用へ来り候田畑上中下

反歩之帳惣寄、右案紙之通式枚宛認置候而、檢見之節指出し候様

ニ兼而可被申付候

一 各与下村々九ヶ年之割付取集、致壹袋ニ今明日中ニ可被指越候

八月廿九日

坂井郡

与頭中

木内八九郎印

右之御廻状即刻ニ後山村へ遣し候

一 右之御廻状被遣候ニ付下関村庄や長百姓参候様ニとはいふ遣し候

八月晦日

一 下関村はいふ遣し候へ共庄や長百姓不参候付、権右衛門を遣し候

へハ下関村之者共舟寄ニ居申由ニ候故、権右衛門舟寄へ参御断申

上罷帰候

一 村々庄屋中風損帳持参候

一 清王村二郎右衛門と申百姓高未進ニ而潰ニ及申由庄や九右衛門断

申二付、算用目録ニ判形為仕二郎右衛門田地作人ニ重而指図いたし□迄年貢外散申ましく候と判形為致、持参候様ニと権四郎ニ申付候

一清王・十楽請合日限相延候由昨日御配符被遣候ニ付、今日御金持参申候故延引之御断ニ口上書遣し候、其内ニ矢地請合金之内壹両壹分銀八匁靈順分相済不申候、其外相残分ハ来ル二日ニ相済させ可申と申上候、次ニ下関之者共ニ各はいふ遣し候へ共返事も不仕候由申上候
一面々支配之村々高付仕指上候様ニと御はいふ被遣候

九月朔日

一矢地村庄屋吉右衛門、靈順算用立合為致相済候ニ付双方証文取置申候

一菅野・山室・宮谷・高塚の願状壹通宛、内宮谷村下書なし

一中川村の願状壹通、下書なし

一北村の願状壹通

一矢地村の願状壹通

一馬場村の願状壹通

一東善寺村の願状壹通

一清王村二郎右衛門算用目録請取候

同二日

一何れも与頭中寄合ニ付舟寄へ参候、御代官様牛首領の御歸り被成候

同三日

一諸事御用相勤候、次ニ与下村々九年之免状指上申候
一右村々願状指上申候
一丸岡浪人中之証文指上候へ共少違有之ニ付御返し被成候
一右浪人中鉄炮願状案紙出申候
一与頭願状指上候、坂井郡六人の右之下書自分方ニ有

同四日

一与頭中面々支配村々高、多分之過不足無之様ニ忒ツニわり出し候様ニと被仰付候

前谷 笹岡 宮谷 青野木 西方寺 清王 十楽 高塚 馬場

東善寺 谷畠 中川 拾貳村

高ノ四千六百九拾四石四斗壹升七合

北野 北村 田中 矢地 菅野 山室 新用 轟木 下関 九ヶ村

九ヶ村

高ノ四千六百拾九石六升九合

右之通書上ケ申候

一下関村戌未進金指上不足ニ付長百姓長右衛門・安兵衛籠舎被仰付候処、下ニ而人をかへ長右衛門代ニハ伝吉、安兵衛代ニハ門右衛

門を籠へ入申二付、庄や長百姓五人組被召寄二付御はいふ被遣候
処、不参候二付重而申遣し、何れも参候由御断

同五日

一 下関村庄屋吉右衛門・七右衛門・長百姓長右衛門・安兵衛五人頭
共、与兵衛様御前被召出御詮儀之上被仰聞候、(五味豊法・舟寄代官)
五味小左衛門納残し帳面二村々ニ未進金有之候、処当十日切ニ相濟候様ニと八九郎
方申渡候由、依之十日過ニハ何れも少々上納いたし二付、当廿日
ニ村々庄屋長百姓呼寄吟味之上、廿三日切、廿五日切、晦日切日
請合仕指上候而、何れも日切之通相濟申候、下関之義未進金五拾
六兩銀六分弍厘之内拾四兩銀拾壹匁、理兵衛与此内ニ而八兩上納
いたし、残六兩余ハ早々指上可申請合候、残而四拾壹兩三分銀四
匁之内右日請合ニ相違御金上納不申候二付、晦日ニ長百姓之内長
右衛門・安兵衛籠舎ニ致候処、右兩人之者手代共見知不申候二付、
門右衛門・伝吉と申者を右兩人と偽り籠舎為致指置候而、漸当二
日ニ金子八兩吉右衛門上納いたし候、ケ様ニ申付候籠舎人を取か
へ郡中不残未進金相濟候処、今日迄金子入不申候義申分ケ仕候様
ニと被仰付候得共、一言之申分無之ニ付庄や長百姓口書御取被成、
吉右衛門・七右衛門・長右衛門・安兵衛四人籠舎被仰付候、右口
書之下書与兵衛様御前ニ而奥津澆右衛門殿御書被成候を、以後之
ため自分方へ取置候

一 右吉右衛門・七右衛門与下残り金老吟味帳御取候而、向後取立

之儀五人頭理兵衛立合取立早々相濟候様ニと被仰付候

一 七右衛門手前二取立之四兩壹分有之候二付、自分方へ預り置候而
則手形七右衛門ニ相渡し申候、其金翌六日ニ指上候而御手形請取
置候、包賃ハかけやへ相濟不申候

一 右安兵衛と申門右衛門籠ニ入罷有候処、門右衛門子相果申由ニ而
安兵衛子相果申と申上候二付、八兵衛と申者と門右衛門と入かへ
被成候処ニ、八兵衛母相煩申由ニ而御入かへ被下候様ニと願参候
二付、煩申義実正二候ハ、右之門右衛門と御入かへ可被成候間、
吟味仕候様ニと被仰付候

九月六日

一 四日ハ何れも与頭中二郎丸願光出入嚙候へ共相濟不申候二付、何
れも二日ハ今日迄舟寄ニ罷有帰り候
一 下関へ参八兵衛母煩候事相尋候へ共煩不申候由庄屋利兵衛申二付、
其通ニいたし罷帰候
一 金津三田村六右衛門殿へ為御見廻立寄申候

同七日

一 村々庄屋中被参候様ニと申付、呼寄候而追付小検見衆御出被成候
ニ付段々申付候

一 今晚村々庄屋共不残舟寄へ被召寄、則与兵衛様□□被仰渡候ハ、
手代中少之物ニ而も音信□□仕間敷旨神文被仰付候

一木内八九郎殿・洪垂助左衛門殿・奥津滝右衛門殿大野郡御検見ニ御出被成候由

一 小木仙右衛門殿・横田数右衛門殿・高嶋藤四郎殿坂井郡へ御検見ニ御出被成候而御油田ニ御泊り

一 村々残り金之分早々取立、かけや忠兵衛ニ相渡し手形を取置可申候、追付舟寄へ罷帰り候節御手形と引かへ可申と御はいふ八九郎様と与頭中へ被遣候

一 下関八兵衛母煩申由五兵衛と申者申来り候ニ付、昨日利兵衛ハ指而煩申とハ不申候処何共合点不參候、弥煩申事候ハ、利兵衛証文出し候様ニと申付返し候

九月八日

一 下関理兵衛參八兵衛母相煩申候間御入かへ願度由申候得共、何れも御役人様方御廻郷ニ而舟寄ニ無御座候へハ、何方へ可申上様も無之由申聞候

一本堂村長兵衛方富札五百枚預り申候

一 安光太左衛門・吉兵衛・茂左衛門、但茂左衛門ハ庄やニも可成者、中村ニ而太右衛門・助右衛門・七郎右衛門、但太右衛門者庄やニも可成者、小路半介・弥右衛門・清左衛門、たち源右衛門・安兵衛・与三兵衛・三郎右衛門、メ拾三人面立候者共ニ候
一 御役人様方今日雨天ニ付御油田村ニ御滞留被成候由

九月九日

一 御検見之儀ニ付村々庄屋中參候ニ付、被仰付候段々かたく申付候
一 御検見御役人様方今日後山ニ御泊りニ付罷越御意得候

同十日

一 右御役人中後山・清滝・鎌谷・柵・笹岡・北野・前谷、此村々御検見相済、御泊り右村々何れも歩かり被成候、御役人衆ハ横田数右衛門様・高嶋藤四郎様・小木仙右衛門様

九月十一日

一 前谷村へ御出被成候而北村・中川・田中・二郎丸・北疋田・矢地・御簾尾御らん被成候而、御簾尾村七右衛門方ニ御泊り被成候
一 御検見送り馬壹疋、中川村壹疋、田中村壹疋ハ笹岡村御荷物送り候ハ笹岡村之人足ニ而御簾尾村迄送り申候

一 金津新屋又右衛門方へ下関村へ金子八両代米三拾弍表当霜月中ニ相渡し可申定、其上ニ高五拾表五斗、質物ニ書入申証文ニ御役人之御裏判を取相渡し可申候処、八九郎様大野郡御検見に御出被成候ニ付今日御裏判取申事成不申候、四、五日中午ニ御帰り被成次第御裏判申請相渡し可申と、我等預り之一札遣し申候

九月十二日

一 小検見衆清間・伊井・川原井田^(手)・高塚・山室・菅野御らん被成候

而十右衛門方御泊、荷物・御乗馬ハ後山与下ヲ出し申候而菅野迄御付被成候

洪垂助左衛門印
木内八九郎印

九月十三日

村々与頭衆中

一宮谷・青野木・西方寺・清王・十楽村御らん被成候而赤尾村へ御通り被成、御泊りハ井江葭村、御荷物ハ山室村之人足ニ為持井江葭村へ遣し候、御乗馬ハ矢地村・宮谷村・山室村ヲ老正宛出させ申候

九月十五日

一御代官様・宮領・田嶋・河和田・御油田・玄女・川上・後山・清滝・栲・前谷へ被為入、御泊り

一殿様御検見ニ何時分御出被為成と為御窺之書状舟寄善右衛門方へ菅野村人足ニ遣し申候

一宮谷村権右衛門娘上方ニ而相果候、権右衛門并庄屋長百姓証文を以申上候へハ証文ハ御代官様へ御取被成候

九月十四日

一明十五日ニ殿様御検見ニ御出被遊前谷ニ御泊り之由、舟寄善右衛門方ヲ被申越候

一御代官様御泊り之義前谷与ニ泊り被遊候ニ付、御式泊り共ニ後山と立合諸事相勤可申と右ヲ相定候付、御賄方之為立合と上関七郎右衛門・玄女半右衛門并ニ与頭代ニ後山新五兵衛罷出候、前谷与ヲ立合矢地武兵衛・宮谷義太夫罷出諸色相改申候

同十六日

一後山善兵衛ハ御出之儀一日御指延被下候様ニと御断之ため舟寄へ被参候、何れも組下村々へ乞食非人限りニ入込候由相聞候ニ付廻状出し候間廻状之趣相守、且御年貢皆済無之内諸勘進一切不可入旨板ニ書候ハ、村々ニ銘々立候様ニ可被申付候、則案文書付遣候当御年貢皆済無之以前諸勧進一切不可入者也

一右之通前谷ヲ御出被遊、北村・中川・田中・二郎丸・北疋田・南疋田・里竹田・御簾尾・矢地・清間・伊井・菅野・山室・宮谷・青野木・高塚・西方寺・清王・十楽御覽被成候而、清王照嚴寺ニ御泊り、馬人足帳別紙ニ有、右両与之立合十楽村へも参候

亥九月

右之趣有合之薄板ニ書記立候様ニ早々可被申渡候、以上

九月十七日

九月十二日

奥津滝右衛門

一右十楽村照嚴寺ヲ御立被為成候而加戸村忠左衛門方ニ御泊り被遊

候

一 数右衛門様・藤四郎様・仙右衛門様昨十六日ニ布め御出候而、
新用・馬場・東善寺・谷畠御覽候而、谷畠平左衛門方ニ御泊り被
成候処、十七日ニ雨ふり候故御滞留被成候ニ付、十楽直二谷畠
へ罷越平左衛門ニ泊り居申候

同十八日

一 右三人様谷畠御出候而轟木御覽被成候而大味村へ御こし被成候、
自分ハ轟木ニ而暇乞申候、谷畠御送り之馬人足ハ馬四疋下関、
壹疋ハ轟木、メ五疋、内三疋ハのり馬、式疋荷馬下兵庫迄參候、
人足ハ村次ニ仕候
一 木内八九郎様・奥津滝右衛門様・渋垂助左衛門様後山ニ御泊りニ
付、直ニ後山へ參御意得候而宿罷歸り候

同十九日

一 御代官様布目御出被遊ニ付重義迄罷出御供いたし、谷畠・東善
寺・馬場・新用・河原井田^(手)・下関・轟木御覽被為成、大味村^を下
兵庫に御泊りニ付轟木ニ而御暇乞申上候
一 御先手三人衆下兵庫御出候而、下関御覽候而上関ニ御泊りニ付、
途中ニ而御意得候而宿へ罷歸り候
一 御跡御三人櫛^を笹岡・北野・前谷御覽被成候而自分方ニ御泊り被
成候

一 宝性院村々可渡御札・墨壺ケ宛持參預り申候

同廿日

一 右御三人天氣悪敷候ニ付御滞留被成候
一 村々取ケ付諸免之儀、いか様之子細ニ而寅年^を大分免下り申儀村々
相尋書付させ重而指上候様ニと被仰付候

九月廿一日

一 八九郎様・滝右衛門様・助左衛門様前谷村御出被成、北村・中
川・田中・二郎丸・両疋田・里竹田御覽被成候而御簾尾御泊り、
御送り馬ハ壹疋北村、壹疋中川、壹疋田中、壹疋笹岡^を出させ申
候
一 御先手十九日ニ上関ニ御泊り之処、仙右衛門様御煩ニ而上関ニ御
滞留ニ付昨晚為御見廻権右衛門遣し、今日又中川西光寺殿并ニ権
右衛門・北野久左衛門御見廻として遣し候

九月廿二日

一 御跡手三人御簾尾御出、矢地・清間・伊井・河原井田・下関・
上関七郎右衛門方ニ御泊り被成候、御送り馬式疋矢地村^を出させ
申候、但自分ハ下関村利兵衛方泊り申候
指上申一札之事
一 今度当立毛為御見分御廻り被遊候節、各様ハ不及申上御家来中迄

何二而も御非分成義一切無御座候、且又金銀米錢之義不及申音信
音物壹錢ニ当り候物成共曾而指上不申候、尤召仕之御家来衆是又
右同前ニ御座候事

一御賄之儀ハ御泊り之村々ニ而米・塩・味噌・薪并菜・大根・牛房^(莠)
之類迄一々御買上ケニ被成、則代物当座々ニ御泊り宿へ御渡し被
成候、然上ハ何二而も村入用一切無御座候、若御検見之御入用と
かニ付百姓へ壹錢成共割懸候由後日ニ被及御聞候ハ、連判之者
共何分之曲事ニも可被仰付候事

一無用之人馬一切御遣不被成候、御泊り之宿ニ而ハ内夫式人之外入
用無御座候、是又被仰出候外無益之人夫費候由後日ニ相聞へ候ハ
、何分之越度ニも可被仰付候、為後日村々庄屋長百姓連判ニ而証
文指上申処仍如件

元禄八年亥九月

前谷組村々

庄屋連判
長百姓

木内八九郎様

奥津滝右衛門様

渋垂助左衛門様

指上申一札之事

一当村ニ庄屋三人長百姓三人御座候内庄屋吉右衛門・七右衛門、長
百姓長右衛門・安兵衛、御公儀様御支置相背候故御詮儀之上右之
者共籠舎被仰付候処、当為御検見各様村々御廻り被遊当村へ御移
り之刻庄屋内式人・長百姓式人籠舎被仰付候へハ老人残候庄屋利
兵衛并長百姓・小百姓ニ至迄不殘罷出田畑案内仕、願之義も有之

候ハ、可申上由被仰渡、則田畑委細御案内仕御順道成御立見ニ御
座候へハ、村中大小之百姓残念ニ奉存義毛頭無御座候、為後日庄
屋利兵衛長百姓并大小之百姓連判ニ而証文指上申処仍如件

元禄八年亥九月

下関村

小百姓不殘

長百姓不殘

木内八九郎様

庄屋利兵衛

奥津滝右衛門様

判形ニ而指上申候

渋垂助左衛門様

九月廿三日

一御跡手三人衆上関村御出被成、轟木・谷畑・東善寺・馬場・新用、
夫の番田・重義・高塚御覽候而菅野村十右衛門方ニ御泊り被成候、
但自分も十右衛門方泊り申候

覚

一金四両壹分

前谷村

一金貳拾六両壹分

宮谷村

一金拾五両貳分

高塚村

一金三拾四両

山室村

一金三拾五両

中川村

一金拾五両貳分

田中村

一金七両三分

北村

一金五両

北野村

一金三拾貳兩壹分

笹岡村

一金拾七兩三分

矢地村

一金貳拾九兩壹分

菅野村

一金貳拾四兩壹分

青野木村

一金七兩三分

清王村

一金拾貳兩壹分

十楽村

一金壹兩

西方寺村

一金五兩三分

新用村

一金七兩貳分

馬場村

一金七兩貳分

東善寺村

一金五兩貳分

谷畠村

一金拾壹兩貳分

轟木村

一金七拾貳兩貳分

下関村

ノ三百七拾八兩

右者当亥之初納金割付之通来月六日ヲ限急度上納可被致候、若右之日限遲滞ニをゐてハ可為越度候間可被得其意候、以上

九月

木内八九郎印

右村々庄屋中

右之通初納金割付之通日限延引無之様ニ村々^(組)下村々へ可被申付候、

以上

前谷村

次郎左衛門殿

九月廿四日

一右御檢見之衆菅野村御出候而、山室・宮谷・青野木・西方寺・清王・十楽・赤尾ノ国影村ニ御泊り被成候、御送り馬ハ青野木・高塚・新用・馬場・東善寺村ノ壹疋宛出させ申候

一宮谷村ニ而諸々盛帳御尋之処、無調法有之ニ付而御吟味被遊候
一清王村權兵衛方ニ而盛帳御尋之処、貳拾五年以前ノ少宛之銀子ハ当座扨ニ仕盛帳無之由申上候

一御代官様能州へ御下り被為成候ニ付、今日十楽村照嚴寺ニ御泊り可被成由被仰越候ニ付、清王・十楽兩村として御泊り之支度申付照嚴寺へ御入被成候、御供拾貳人、上下之者五人、諸入用之儀ハ十楽村ニ帳面有之候、自分ハ十楽吉兵衛方ニ泊り申候

九月廿五日

一御代官様照嚴寺ノ御出被為成能州江御下り被遊候
一十楽村ニ而諸入用入足等吟味仕庄屋共ニ帳面出し候様ニと申付候、御送り馬四疋、人足六人橋迄遣し申候、馬ハ細呂木馬ヲやとひ申候、人足清王・十楽村ノ出させ申候

一宮谷村・清王村庄屋共めしつれ加戸村ニ八九郎様御泊りニ付、宮谷村之義何様ニも御穩便ニ被成被下候様ニと申上、当分其通ニ可被成由、清王村之儀盛帳無之由小百姓証文御目ニかけ申候、自分ハ加戸村忠左衛門方ニ泊り申候

同廿六日

一加戸村の罷歸り金津泊り申候

同廿七日

一金津の宿へ罷歸り申候

一丁銀四匁式分五厘

数右衛門様
藤四郎様
仙右衛門様

九月十日御泊り雑用銀請取

一丁銀四匁式分六厘

殿様御泊り

九月十五日御泊り雑用銀

一丁銀七匁三分三厘

八九郎様
滝右衛門様
助左衛門様

九月十九日同廿一日迄御泊り
雑用銀請取申候

右之通今日相改書出し申候

九月廿八日

一笹岡村宗右衛門持山真行坊山と申所ニ而東村之者ニ木をうり為切

候へハ、同村介右衛門・利兵衛方のおさへ申由断ニ参候

一菅野村半右衛門庄屋代りニ訴状持参

同廿九日

一轟木村戌未進金之内五匁式分自分預り手形八九郎様へ指上、皆済

二仕籠舎御免被為成候、則右五匁式分轟木村庄屋長百姓預り手形

并二八両之上納手形質物ニ取申候

一八九郎様・滝右衛門様・助左衛門様、布目ニ被成御座、御用之由

二候故今日布目へ参候、則彦兵衛方ニ泊り罷有候

一田中村願状壺通、同下書共ニ

一青野木村右同断

一笹岡村右同断

一清王・十楽・西方寺三ヶ村壺通、下書共ニ

一下関村願状壺通、下書なし

一谷畠村願状壺通、下書なし

一前谷村願状壺通、下書なし

一於布目二八九郎様・滝右衛門様・助左衛門様与下村々御尋ニ付、

北村・菅野・山室・宮谷・高塚・東善寺・轟木・前谷之儀訳て申

上候

同晦日

一右御三人様布目御立候而兵庫組へ御移り、即御暇乞申上、夫の

持仏表具之儀ニ付宿西光寺殿へ参候

一御延米御願之事、御廻船遅参候事、年々御直段違之儀、右三色願

状与頭判ニ而指上候様ニと被仰聞候

一九年之間御免高下之事、吟味いたし与切壺冊之帳ニ仕、右御三人

様長田ニ御滞留候内持参候様ニ被仰付候

一彦兵衛・善兵衛共ニ三国ニ罷有、右九年免御改之下書相談いたし

候

十月一日

一右之下書いたし三人共ニ逗留いたし候

一右之下書相濟候ニ付清書仕候

同二日

一右之書付上新庄へ遣し候へハ、文談御直し被成候ニ付又相談仕候

同三日

一御直し被成候趣清書いたし布目ニ罷有候

同四日

一右之書付森田与三右衛門ニ為持長田へ遣し候へハ、又御直し候て

長田之人足ニ為持布目迄御返し被成候ニ付、其御直し之通書立村

之庄や長百姓判形ニ而指上可申と申合候

同五日

一布目ニ罷歸候節、御代官様能州ニ今日御立被遊候由、金津三田村

六右衛門殿ニ彦兵衛方へ被仰越候付、六右衛門殿へ立寄様子相尋

候へハ、宿々ニ送り状參候由承届罷歸り申候

一 九年御免相御改之判形取為可申ニ、明六日ニ村之庄屋中被參候様

ニと配符出し申候

同六日

一村之庄屋中不残被參候ニ付右之判形相濟申候

一 明日御代官様御迎ニ罷出可申候由布目へ書状遣し候へハ、彦兵衛も其通之手かミ被指越候

十月七日

一 布目彦兵衛・後山茂右衛門同道ニ而細呂木坂之上迄參御目見得仕、夫ニ御供仕罷出、金津新町ニ而御暇乞申上候而罷歸り候

一 矢地清兵衛・菅野半右衛門・青野木甚右衛門・東善寺甚右衛門、庄屋代り申度との願状指上候ニ付、吟味立かへ可申候間、右村之庄屋中同道ニ而八日九日兩日之内ニ被參候様ニとはいふ遣し候

一 右九兵衛御免改之書付、矢地村人足ニ為持東長田村へ遣し候へハ、八九郎様・滝右衛門様・助左衛門様御請取被成候由御返事被遣候

一 最前宮谷村盛帳出し申義ニ付、小木仙右衛門様へ宮谷村義太夫ニ書状為持遣し申候

同八日

一 矢地村清兵衛庄屋替り候て善右衛門庄屋ニ立申候、則百姓中証文取申候

一 青野木村甚右衛門庄屋替り候而弥次兵衛庄屋ニ立申ニ付、百姓中証文取申候

一 清王村彦兵衛・彦四郎、十楽村又右衛門下男之請ニ立申候処、右之男当夏欠落仕候ニ付人代を立候様ニと申候へ共、埒明不申候故重而又右衛門方〆断有之、右両人之請人召連參候様ニと申付候へハ、又右衛門方へわひ事いたし相済申由九右衛門断申越候ニ付、最前〆申付候処我かま、を申、只今迄埒明不申候事不届ニ候間、重而せんき可仕候由遣し候

十月九日

一 東善寺村甚右衛門替り庄屋伝右衛門相立候付、村中証文取申候
 一 菅野村半右衛門替り庄屋甚左衛門相立候ニ付、与中証文取申候
 一 矢地村七郎右衛門庄屋右之通仕候由、善兵衛・清左衛門断ニ參候
 一 矢地村靈順前妻さく、夏中〆指上候書付之通返答被仰付被下候様ニと申来り候ニ付申渡候ハ、靈順と離別いたし家を出候上ハ福居領桂山へ立帰り、靈順と出入可仕義ニ候ハ、福居御奉行所へ訴候て、福居〆御指紙を以舟寄へ被仰達候ハ、靈順ニ返答可被仰付義と存候、然ハ自分方〆取次申義ハ不罷成候、最前書付預り置申義ハ里村義ハ矢地村出生之者ニ候へハ、其子ニ懸り矢地村ニ而暮し申者ニ候へハ、靈順方へも様子相尋候へ共、今度里村〆此出入取上ケくれ申間敷由書状遣しニ□取次申事難成由申聞候へハ、右之書付返し候様ニと申ニ付書付返し申候

一 笹岡利兵衛呼寄候而宗右衛門真行坊山之事相尋申候

同十日

一 舟寄へ罷越、矢地清兵衛・菅野半右衛門・青野木甚右衛門・東善寺甚右衛門庄屋替り申証文指上申候
 一 福居殿様金津へ御成被遊候ニ付、諸事御馳走之ため神田政右衛門殿布目へ御出候間、金津近所村々火之用心其外道橋悪敷所ハ能仕、惣而御侍衆へ慮外無之様ニ申付候様ニと御はいふ被遊候ニ付、早々村々へ申遣し候

一 矢地村靈順前妻舟寄ニ相談罷有候ニ付而、書付取次不申候段々八九郎様へ申上候

同十一日

一 東善寺村寺嶋源左衛門殿・前谷村森市左衛門殿所持之鉄炮、何れも願状被指添御陣屋へ指上申候
 一 下関村籠入之事、御詫言申上候へハ御役人様方御取次被成候事難成候間、寺方を頼申上候様ニと御内意有之ニ付、清王照嚴寺殿・轟木浄光寺殿奉願度由書状遣し申候
 一 二郎丸願光出入嚙ニ而済候様ニと、異見仕候様ニと後山善兵衛被申ニ付、舟寄罷帰節三右衛門方へ立寄色々申候へ共承「」不仕候

同十二日

一 二郎丸三右衛門參願、光出入嚙ニ而相済申事成不申候と断申候、

後山の嘜ニ罷出候様ニと申来候へ共、右之仕合ニ候故不参候
一 亥宗旨御改寺判揃不申候ハ、村之帳之寄を書、庄屋長百姓判形、
与頭奥判いたし、十五日ニ帳面指上候様ニと被仰付候故帳書立申
候

同十三日

一 右之儀ニ付庄屋長百姓印判持参候様ニと申遣し候
一 神田政右衛門殿・福居兵部様金津へ御成被為遊候ニ付、為御馳走
布目へ御出被成、村々へ道橋能仕火事等無之様ニ、其外慮外不仕
候様ニと被仰付候ニ付、為御見廻と布目へ参候ニ付金津三田村六
右衛門殿へ立寄、御代官様を被入御念段誠御機嫌能被為成候段申
上候、夫の布目村へ参候
一 布目の後山善兵衛同道ニ而三国へ参候
一 坦誉和尚松竜寺へ入院

十月十四日

一 三国の帰候ニ付布目へ寄候而罷歸り候
一 村々庄屋長百姓参候ニ付、宗旨改帳之寄并御侍中ニ慮外仕間敷と
の証文判形取申候
一 村々の普請持参いたし候

十月十五日

一 御代官様御直ニ被仰渡御用有之候、間舟寄へ罷出候様ニと御配符
被遣候ニ付参候得ハ、則御前へ坂井郡与頭六人共ニ被召寄候而、
与頭給之儀先年之通高百石ニ付銀六匁式分五厘、米壹斗壹升五合
宛取可申候、其段村々へハ御役人中の御廻状ニ而可被仰渡由
一 寺嶋源左衛門・金子左衛門・森市左衛門・同平太左衛門、前谷・
東善寺・菅野ニ住宅被致候ニ付、証文三通右村之庄屋長百姓判形
ニ而指上申候

同十六日

一 御前ニ而御酒被下候、坂井郡与頭中不残
一 次郎丸願光・同権兵衛出入与頭中嘜被申候ハ、願光娘はつと権兵
衛弟六兵衛と夫婦ニ仕、願光持高八石壹斗壹分持候、来月中ニ
別家仕世帯ニ出し候様ニと嘜□□相済申ニ付、嘜証文ニ与頭中不
残□判いたし願光ニ相渡し候
一 亥春御普請(扶持)ふち不残請取候由并御城米津出し五里内ニ候故駄ちん
取不申候由証文指上候
一 亥宗門改村寄斗書上申帳面指上申候
一 来亥春御廻米御免被下候様ニと願状指上申候、留書有

同十七日

一 矢地靈順妻舟寄へ度々相詰候へ共、右の段々ニ而書付取次不申
候ニ付、靈順と今迄之通壹所ニ罷成候様ニと与頭中異見ニ付納得

仕候二付、然ハ其段靈順ニ可申渡候間罷歸候様ニと申付候

一下関村庄屋吉右衛門・七右衛門、長百姓長右衛門・安兵衛、小百姓伝吉・八兵衛籠舎被仰付候二付、御詫ニ加戸村本流院昨日御出被成候而色々被仰上、御赦免ニ付段々証文御取被成候、則自分方へも証文取申候

一横田数右衛門殿御支配村々

下関村 轟木村 新用村 山室村

菅野村 矢地村 北野村 北村

田中村 〆九ヶ村

高合 (マ、)

一高嶋彦四郎殿御支配村々

谷畠村 東善寺村 馬場村 高塚村

清王村 十楽村 西方寺村 青野木^(村)

宮谷村 笹岡村 中川村 前谷^(村)

高合

一舟寄^カ罷歸り申候

一新納金御代官様御立前ニ早々相濟候様ニと度々配符遣し申候

十月十八日

一矢地村靈順・七郎右衛門・彦介・助右衛門・善右衛門・靈順妻呼寄、夫婦中直り申様ニと靈順ニ申聞候へ共承引不仕候、明日返事可申由申ニ付何れもへ異見仕候様ニと申遣し候

一矢地村七郎右衛門・善兵衛・清左衛門ニ申渡候ハ、七郎右衛門^(与)

^拾□七人、善右衛門組へ付申度由訴状を以申上候、いか、可仕候哉相談被致候様ニと右三人へ申渡し候

一村々へ御金之事はいふ遣し申候

一舟寄魚屋宗右衛門方ニ而簞子を式拾匁ニかい取、内金壹分相渡、たんす下関之者頼下関迄為持候而、今日此方之者ニ而取寄候へハ、八九郎様^カ御用ニ候間、我等方^カかい分ニ被成度由善右衛門方^カ被申越ニ付、十九日ニ北村・前谷御金上ヶ人足ニ為持候而舟寄なへ屋加左衛門方迄遣し申候

一矢地夫婦出入村之者共暖ニ而おさく跡之通靈順方へ入候而相濟可申由、靈順夫婦共ニ参申ニ付靈順ニ証文判形取申候

一下関村庄屋利兵衛其外長百姓不残呼寄候而、庄屋吉右衛門・七右衛門被召上候ニ付跡庄屋立可被申候、庄屋ニ立申者無之候ハ、長百姓拾人余ニ小百姓をわり付、其組々を頭々之者^カ立いたし、惣庄屋をたれニ成共壹人立候而惣下金其頭々^カ請取、舟寄へ持参仕御触なかし斗いたし候様ニ相談可仕由申付候

十月十九日

一福居殿様去ル九日ニ三国へ被為成、一夜御逗留ニ而十日ニ金津御成、十六日ニ御帰之処、大あれニ而十楽村仁兵衛方へ御入被遊、夫^(廻カ)舟津^カ又金津へ御戻り、今日迄御逗留ニ而、又三国廻り今日御歸り被遊候由

一筆三対代丁銀壹匁五分之由、舟寄九郎兵衛よりかい申候

残四両三分 不足

一金拾五両貳分 高塚村

十月廿日

十月廿日迄二相済

一金三両壹分轟木村助右衛門を入、五両貳分貸金□□、則証文ニ裏

一金三拾四両 山室村

書仕候

内貳拾七両 右同断

一谷畠村兵右衛門馬通手形取申儀度々之事□、終ニ自分不参候ニ付

残七両 不足

一金三拾五両 中川村

いか様之子細ニ候哉、重而ハ下証文認自分不参候ハ、手形出し不
申候と遣し□□申候

内四両貳分 算用違御断申上ル

一舟寄へ御代官様明廿一日江戸御発駕ニ付参候、御前江与頭中不残

貳拾五両貳分 右同断

被召寄、江戸御留守中御用專一二相勤候様ニと被仰付候

残五両 不足

一金拾五両貳分 田中村

一前谷村森市左衛門・東善寺村寺嶋源左衛門、鉄炮之願状指上申候

内拾三両貳分 右同断

同廿一日

残貳両 不足

一金七両三分 北村

一御代官様江戸御発駕今朝八ツニ御立ニ付、坂井郡与頭中北横地追

内五両三分 右同断

分迄御見送り仕御暇乞申上罷帰り候、舟寄ニ而御役人様方へ御立

残貳両 不足

一金五両 北野村

之御悦申上候

一金五両 十月廿日迄相済

一当御取立之段々委細申上候

一金三拾貳両壹分 笹岡村

一金四両壹分 前谷村

内貳拾壹両 右同断

内三両貳分 十月廿日迄上納

残拾壹両壹分 不足

残三分 不足

一金拾七両三分 矢地村

内拾三両壹分 右同断

残四両貳分 不足

一金貳拾九両壹分 菅野村

十月廿日迄相済

一金貳拾四両壹分 青野木村

内拾八両三分 右同断

残而五両貳分 不足

一金七両三分 清王村

十月廿日迄二相済

一金拾貳両壹分 十楽村

内拾両 右同断

残貳両壹分 不足

一金壹両 西方寺村

十月廿日迄二相済

一金五両三分 新用村

内五両壹分 右同断

残而貳分 不足

一金七両貳分 馬場村

内七両 右同断

残貳分 不足

一金七両貳分 東善寺村

内七両壹分 右同断

残壹分 不足

一金五両貳分 谷島村

内四両 右同断

残壹両貳分 不足

一金拾壹両貳分 轟木村

内壹両貳分 右同断

残而拾両 不足

一金七拾貳両貳分 下関村

内四拾八両貳分 右同断

残貳拾四両 不足

合金 (マ)

内

残

右ハ亥新納ハ十月廿日迄村々入金如此「」

一舟寄ハ福居ハ参吉兵衛方ニ泊リ申候

十月廿二日

一福居ハ松岡ハ参罷帰リ候、荷物「」下関ハ人足をやとひ矢

地迄参候由

一笹岡村称運寺兄大真渴命ニ及申由断ニ参候

同廿三日

一右不足金之儀村々へ配符遣し申候、其外村々御役人御付被成候間、

一兩日之内内村々庄屋長百姓舟寄へ被参候様にと申触候

一麻木簾拾枚 長貳間
高五尺 前谷組

一藁こも拾枚 長老間
は、三尺 同断

一竹五拾本 貳寸五分廻り 同断

右ハ御陣屋御勘定所并牢屋雪垣御用ニ候間、当廿七日迄ニ舟寄へ
持参仕馬指角兵衛ニ相渡し可申候由善右衛門を被申触候、則村々
わり出候

竹拾五本 笹岡村

竹拾五本 青野木村

竹貳拾本 高つか村

わらこも五枚 宮谷村

わらこも五枚 中川村

麻木す五枚 新用村

麻木す五枚 馬場村

右之通わり付申候、則配符遣し申候

一戌御免七分九厘 上番村

一同壱ツ三分五厘 中番村

一同貳ツ式分八厘 下番村

右三ヶ村戌御免聞合書付指上候様にと被仰付候ニ付、谷畠村武兵

衛聞ニ遣候、右之通「」指上申候

一福居殿様御機嫌能御立被遊「」金津参、三田村六右衛門殿・

松田弥兵衛「」申上罷帰り候

一矢地村へ参七郎右衛門与取除可申と申「」儀段々七郎右衛

門・善兵衛・清左衛門ニ申渡「」靈順と妻中直り為致可申候

処、靈順宿ニ居不申候ニ付罷帰り候

一栗毛四歳馬、右之直段ニ金壹「」利付ニ而菅野半右衛門上方

へ遣し申度由申ニ付、うり渡し申候

一數右衛門様・藤四郎様を新納金書出し村次ニ而被遣候、右我等仕
出しニ違申村ハ青野木村貳両壱分と被仰越候

同廿四日

一笹岡村大真渴命ニ及申由訴申ニ付村之者共呼寄様子相尋候へハ、

称運寺ニも□□ニ養被申由ニ候へ共、大分大喰を仕候而毎日村を

乞食ニ廻り申由、宗左衛門・与三右衛門・彦三郎申ニ付口書を取、

称運寺方へも能養候而此方へも不参候様ニ可被致由申遣候

一下関村七郎右衛門・安兵衛・吉右衛門子七郎兵衛、今度之礼とし
て参候

一下関村九兵衛、与三兵衛江戸を罷歸候迄之庄屋代ニ罷立候由、為

断利兵衛并長百姓三、四人参候ニ付、理兵衛与之内ニ而長百姓ハ

清左衛門、五人頭四人、九兵衛ニ而長百姓太左衛門・九兵衛、五

人頭六人相立候様にと名付いたし相渡し、小百姓進退不同無之様

右拾人としてわりわけ支配いたし候様にと申付候

一谷畠村兵右衛門方へ廿日ニ出し候馬手形木目口と書申ニ付、二ツ

屋口と書かへ手形出シ申候

一青野木村弥二兵衛參候ニ付、清王・十楽両村の青野木分上納手形請取、青野木村一所之勘定仕候様ニと申付、則両村へ其通申遣し候、組頭給先年の相究内去年改減候由、右給米ハ高百石ニ付米壹斗壹升五合宛、外ニ御用相勤候雜用駄賃帳紙代等、高百石ニ付銀六匁式分五厘宛先規の相極置候由、今度御吟味之上前々之通被仰付候間左様ニ相心得可申候、与頭□^(方)の申渡候、御用相背申間敷□^(候)、以上

亥
十月廿三日

横田数右衛門 印

高嶋藤四郎 □^(印)

木内八九郎 □^(印)

何村

何村

何村

式拾壹ヶ村
庄屋

長百姓

此廻状村下ニ庄屋致印判早々相返シ、留の返し可申候、以上

一右之御廻状之外与頭中へ壹通宛御書付被遣候趣

一組頭給自先年相究候内去年改減□□^(候由)、右給米高百石ニ付米壹斗壹

升五合宛、外ニ御用相勤候雜用駄賃帳紙代等、高百石ニ付銀六匁

式分五厘宛先規の相究置候由、今度御吟味之上前々之通被仰付候

間左様ニ相心得可申候、与頭方の申渡し候、御用相背申間敷候、

以上

右之通各々下廻状遣し候間、其旨被得相心御用大切ニ相勤可被申候、若与下百姓ニ対し私欲又ハ掠候由相聞候ハ、御詮儀之上急度可被仰付候間、兼而油断無之様ニ可被相勤候、此手紙名所ニ印判いたし此方へ可被相返候、以上

亥十月廿三日

横田数右衛門 □^(印)

高嶋藤四郎 印

木内八九郎 印

前谷村二郎左衛門殿

十月廿五日

一御簾尾村竜沢寺ニ而、亥宗旨御「」当郡六与壹所ニ取申候

一黒毛三才馬壹疋、足毛四才馬壹疋「」馬場村弥次兵衛板取口

通「」

十月廿六日

一年三十四女壹人 矢地村清兵衛「」

一年三十二女壹人 同人 □女

右者加州山中へ湯治仕候ニ付、細呂木口御番所罷通り候御手形奉

願候

一御簾尾竜沢寺ニ罷有宗旨改寺判取申候

十月廿七日
一右竜沢寺の何れも与頭中退去いたし候

十月廿八日

一矢地村靈順夫婦出入相済不申候由、彦介・助右衛門断ニ参候ニ付、

靈順方へはいふ遣し候

一新納不足有之村々へ配符□し申候^(遣)

一金貳拾四両 下関村

一金五両 轟木村

一金貳分 新用村

一金五両 山室村

一金三両三分 矢地村

一金壹両壹分 北村

一金貳両 田中村

一金貳分 谷島村

一金三両貳分 青野木村

一金壹分 清王村

一金四両三分 宮谷村

一金四両 笹岡村

一金五両 中川村

一金三分 前谷村

右之通初納未進金有之候、先達而廿六日切ニ不残上納可致候旨申

遣候処、于今遲滞致候段不届之至ニ候、明廿九日ニ不残上納致候様ニ御申付可有候、勿論明日右村々庄屋長百姓舟寄村迄参候様ニ御申付可有候、詮儀之上急度可申付候、若不参有之二をみてハ可為越度候旨可被申付候、以上

十月廿八日

横田数右衛門 印

高嶋藤四郎 印

前谷村
二郎左衛門殿

右之通御配符被遣候ニ付添配符「」遣し申候

各組下村々当亥之御年貢「」明廿九日ニ相渡し可申候間、

何れ「」出可有之候、村々庄屋召連候「」及不申候間、

左様ニ相心得可被申「^(候、以上カ)」

十月廿八日

木内八九郎 印

坂井郡与頭中

十月廿九日

一御廻状ニ付舟寄へ参候へハ、亥御免状貳拾壹通於御陣屋ニ請取申罷歸り候

一下関村吉右衛門・七右衛門跡庄屋与三兵衛相立候処、江戸の未罷

歸候ニ付其内九兵衛庄屋代仕候、拾人頭相立候由申上候

一矢地村庄や七郎右衛門与拾七人取除可申由訴へ申段申上候へハ、

双方共ニ吟味之上重而申上候様ニと被仰付候

一与頭給御廻状之義ニ付、大味・大口何角と申由、上関次兵衛参候

而物語いたし候二付、其通書状兵庫武兵衛方へ申遣し候

一山室村新納不足金之御断申上候へハ、来五日迄ニ指上させ候様ニ
と被仰付候

一戸田武右衛門殿廿七日ニ舟寄へ御越候二付御見廻申候、山田勘介
殿返与頭中へ□状参候

当亥御免と去戌御免と引合之事

一八厘 去免二下り 前谷村

一壹分八毛 同断 北村

一三厘 同断 北野村

一壹分六厘 同断 中川村

一壹分四厘六毛 同断 田中村

一壹分三厘 去免二上り 笹岡村

一壹分三厘 同断 矢地村

一去免 菅野村

一壹分六厘四毛 去免下り 山室村

一去免 宮谷村

一同 (青野木村)

一同 西方寺村

一六厘貳毛 去免上り 十楽村

一六厘貳毛 同断 清王村

一壹分七厘 去免下り 高塚村

一六厘四毛 同断 新用村

一三厘 同断 馬場村

一壹分五厘 去免上り 東善寺村

一貳分壹厘四毛 同断 谷畠村

一貳分五厘五毛 去免下り 轟木村

一壹分七厘八毛 同断 下関村

一矢地村庄や事ニ付庄や長百姓明日参候様ニと申遣候、靈順右同断

一免状相渡し可申候間明後二日ニ庄や長百姓参候様ニと申遣候

一新納不足金之事申遣候

一宗旨判ニ不参候寺方之事申遣候

一清王彦兵衛・彦四郎ニ参候様ニと申遣候、是ハ又右衛門下人出入

相済申由、最前村人足ニ而断ニ遣候、何様之子細ニ而村人足を遣

し候哉、吟味可仕ためニ申遣候

一石田たんすかい申ニ付舟寄之人足取寄申候

十一月朔日

一矢地靈順妻申候ハ、靈順方入候様ニといつれも被申候二付、其通

ニ請申候処、頃日中靈順家之内をかた付候而入食物等少も無御座

候様支度候ニ付、入申事難成候間断申由申ニ付、靈順を呼今一応

様子を聞届、替事候ハ、重而可申越候、若替事も無之候ハ、当八

日ニハ舟寄へ参候間、罷出可申と申付候

一靈順呼寄様子申上候へハ靈順申候ハ、妻私方へ入候へハ急度養申

様ニ申候得共、下「」立春夏中之かり方へ払候へハ、米

「共ニ無之候ニ付何と可仕様も無御座」 「何方へも奉公いたさせ、私ハ口」 「廻り可申と申事ニ候と申候

十一月廿日切御金わり
一金壹両貳分 前谷村

一 矢地彦介・九郎兵衛を呼寄、七郎右衛門「取除申事我がま、ニハ成間敷候」 「七郎右衛門与はなれ可申子細有之候ハ、其通口書認候而当日ニ舟寄へ持参いたし」 「と申付候

一金貳両貳分 北野村 ○
一金貳両貳分 北村 ○
一金拾両壹分 中川村
一金五両壹分 田中村 ○
一金拾両三分 笹^岡村「

一 同村七郎右衛門・善兵衛呼寄候而、七郎右衛門「間敷由村中へ断申ニ付、取除可申」 「何れも申由ニ候へハ、今又取のかせ」 「由申候、是非与をはなち申」 「候ハ、其子細口書認候而当日ニ舟寄持参可有候と申渡し候、」 「善兵衛内証申候ハ、とかく村老人庄屋ニ廻番仕ハ、御取立以下之儀ニ付十人頭を立、村のお^口まり能様ニ可申付候間、其辺相「様ニと申渡し候

一金六兩 矢地村 ○
一金九兩三分 菅野村「
一金拾両壹分 山室村「
一金八兩三分 宮谷村「
一金八兩 青野木村「
一金壹分 西方寺村

一 下関九郎兵衛参申候ハ、十人頭相立候由申ニ付利兵衛と入ミたれ無之様ニ高等吟味仕、惣高都合相違無之様ニ双与書立、重而持参候様ニと申付候

一金四兩 十楽村
一金貳両貳分 清王村
一金五兩壹分 高つか村
一金貳兩 新用村 ○

十一月二日

一 清王彦兵衛参候ニ付、又右衛門と下人出入相済申由聞届候

一金貳両貳分 馬場村
一金壹兩三分 谷畠村

一 村々庄屋長百姓証文取御免状相渡申候

一金貳両貳分 東善寺村

一 加賀山法度証文判形取^候申^口

一金三兩三分 轟木村 ○

一 諸事御取立之段々申渡し候

一金貳拾四兩壹分 下関村 ○

ノ百式拾四兩式分

右者御年貢金之内当月廿日切ニ指上可申由、村々庄屋判形いたし候

一谷畠村武兵衛、同村才右衛門娘七年季ニ抱置申候処、四年奉公いたし何角と申引込奉公不仕候由証文持参候ニ付而、親才右衛門・請人伝右衛門参候様ニと配符遣し申候

十一月三日

一各給米之廻状村々判形相渡し候ハ、早々御陣屋返し可被申候、以上

十一月三日

木内八九郎印

与頭中

右之御廻状兵庫武兵衛ハ村次ニ而参候ニ付四日ニ後山村へ遣し候

十一月四日

一昨日之御廻状并右給米之御廻状共ニ後山へ遣し、壱所ニ舟寄へ御上ケ被下候様ニ申遣し候

一右簞子之増補北野久右衛門方ニ而伊井村大工七右衛門を頼、二日晩ハ仕懸り今「」一仕廻候而取寄申候

十一月五日

一舟寄ニ而割仕候義、鍋屋加左衛門方ニ「」一問敷由、森川

安右衛門・伊地^(知地)知忠左衛門被申候而宿々相談相極候様ニとの事

「」ハ江戸へかせきニ参候者有之候ハ、□仕前ニ、舟寄御陣屋へ可申上候御用之御状可被遣由ニ候、然ハ道中ニ而病痛之為

ニも成可申との御事、右之両□舟寄善右衛門方ハ被申触候
一本庄ハ三国へ参候、麦屋「」一「」方ニ居申候

同六日

一三国ニ罷有候、古道具を持半左衛門金沢参候ニ付、平太左衛門殿古道具御言伝被成間敷候哉と、書状谷畠・矢地ハ村次ニ宿へ遣し候

同七日

一平太左衛門殿道具共三国へ御持参候而半左衛門御頼被成候
一平太左衛門殿道具共三国へ御持参候而半左衛門御頼被成候

同八日

一清王・十楽村庄屋共参、青野木村□通清王・十楽・青野木三枚ニ被為成被下候様ニと申上候

一清王ハ茶六斤、十楽ハ茶六斤かい申候、右両村ハ大根五百六拾
(本かい申候カ)
「」

一三国ハ罷帰り候

同九日

一郡中大割之儀ニ付昨日八日舟寄可參候処、ひま入候ニ付今日罷出候、自分与下之内ニ而下関村利兵衛中川村「」立合罷出候、利兵衛ハ昨日八日舟「」

一矢地靈順妻右之儀訴申「」庄屋長百姓呼寄候様ニと

「」ニ付、靈順・四郎右衛門後家・七郎右衛門（清兵衛力）「」善兵衛・清左衛門・善右衛門・彦介・（助）右衛門參候様ニとはいふ舟寄

の遣し候

同十日

一矢地村靈順・七郎右衛門・善右衛門・清兵衛・彦介・清左衛門・

助右衛門・四郎右衛門後家舟寄村ニ罷越候ニ付、数右衛門様ニ而

靈順妻方指上候訴状、并ニ村中指上候はつし証文を以段々御

吟味之処、靈順申分ケ難立、其上村中靈順はつし申段々御吟味

之処、右村人共靈順数度之我かま、仕候ニ付はつし申由慥ニ申上

候ニ付、此義出入ニ罷成候ニおいてハ、年寄・子共も有之中を何

之子細も無之追出シ申義御高札之面を背、其上村中ニはさめられ

申義、古来立置候道場之門徒老人不残外へ為參候事、段々悪事重

り申義ニ候へハ、本寺へ断江戸可申上候間、左様ニ相心得可被申

候と数右衛門様被仰渡、村人ハ罷歸り候

十一月十一日

一右靈順夫婦出入大味村太兵衛為噯と相濟申候ハ、靈順持高拾石三

升九合式ツわりニ仕、老分ハ妻取分、老分ハ靈順取分、持山三つ

わりニ仕、老分ハ妻取分、式分ハ靈順取分、御年貢米方々かり方

ハ村人立合吟味之上等分ニ割分取除可申由、兩人之子共兄里村ハ

靈順方へ付、妹雪ハ妻方へ付可申段々定ニ而、夫婦離別可仕由ニ

而相濟候ニ付、右之定段々書付出入相濟申由、願状ニ靈順・同妻・

大味村太兵衛判形ニ而指上申候

一二郎丸願光・同権兵衛出入最前与頭中噯ニ而相濟申候処、権兵衛

埒明不申候由願光方断申ニ付、其段御役人仙右衛門様へ与頭中

被申上候

同十二日

一数右衛門様へ靈順被召出、右之出入噯ニ而相濟□□ニ候へハ、と

もかくも御構ハ無之候へ共、和睦仕夫婦一所ニ罷有候処、離別

之儀ニ候へハ不宜濟□□候へ共無是非候、此上ハ出入噯ニ而相濟

証文「」尤妻方指上候訴状ニハ、四郎右衛門後（家）□

「」密通仕、夫故理不尽ニ追出し申由申「」靈順義

左様之儀努々無之由申上候、左様ニ而可有候、妻執心も無之様ニ

向後共四郎右衛門後家方へ立入猥り成事會而不仕、増而夫婦ニ罷

成間敷由証文指上可申「」靈順御請申上候ニ付、先仮り証

文「」

一二郎丸権兵衛籠舎被仰付候、長百姓六兵衛「」手錠御打被

成候

同十三日

一大割仕候ニ付舟寄村々去年ノ取^(結カ)申候引高之義ニ付、舟寄善右衛門と度々詮^(議)仕候

大割帳之寄写

一銀貳貫三百七拾五匁九分七厘 大割惣辻

戌十月十五日ノ亥七月晦日迄

内

九拾貳匁六分五厘 戌暮大割□

此丁銀八拾壹匁貳分七厘 両かへ六拾八匁五分六厘

七匁壹分四厘 同内割銀

此丁銀六匁貳分六厘 両かへ同断

五匁貳分五厘 籠屋作事□

此丁銀四匁六分壹厘

三口銀ノ百五匁四厘

此丁銀九拾貳匁分四厘

是ハ戌年割方舟寄村へ割当可申之処、出入有之ニ付去年割懸ケ不申候処、亥年立合相談之上出入相濟候ニ付、戌年舟寄当り之分不足亥年出し申ニ付、惣銀之内「
」

八匁 是ハ戸障子ひさし代 □右衛門ノ出分

三拾匁 ひさしノ代 「
」

拾七匁 同断 源兵衛ノ出分

三口銀ノ五拾五匁

小以百六拾匁四厘 引「
」

銀貳貫貳百拾五匁九分三厘 残

此高六万九千三百四拾六石六升壹合

但高百石ニ付銀三匁分九厘

此割

銀貳百六拾九匁三分八厘 舟寄組

此高八千百貳拾八石六斗九升壹合

内千六百貳拾九石八升七合 舟寄村高之内

是ハ御代官様夫役諸入用懸申候「
」郡方之義御代官

様御支配ニ而も、川除・道橋諸普請郷人足之分ハ任先例

除申候

外 高八百拾四石五斗四升三合 舟寄村高之内

是無諸役高 右之割銀除申候

銀貳百三拾三匁八分五厘 長田組

此高七千三百拾六石八斗三升九合

銀三百五拾三匁五分八厘 下兵庫組

此高壹万七千七拾八石壹斗三升九合

銀三百五拾七匁八分四厘 布目組

此高壹万二千貳百貳石八斗九升□□

銀貳百九拾七匁六分六厘 前谷組

此高九千三百拾三石四斗八升六合
銀三百貳拾八匁貳厘 後山組

此高壹万貳百六拾三石五斗壹升九合
銀六拾貳匁九分七厘 光明寺組

此高千九百七拾石貳斗三升六合三勺
銀六拾五匁五分貳厘 森川組

此高貳千八百八拾石三斗八升六合
銀九拾壹匁三分六厘 伊地知組(知地)

此高貳千八百五拾八石五斗壹升壹合
銀百五拾六匁叁分三厘 猪嶋組

此高四千八百八拾五石壹斗貳升三合

右者戌十月十五日亥七月晦日迄諸入用、我々立合指引吟味之上
割符仕候処少も相違無御座候、以上

元禄八年
亥十一月十三日
北横地村 權兵衛印
随王寺村 九兵衛印
下兵庫村 五兵衛印
大味村 太郎兵衛印
十楽村 与三右衛門印
横垣村 次右衛門印
下関村 利兵衛印
中川村 四郎左衛門印

右之通帳巻冊
清間村 作太「
御油田村 市「
「
「

一銀壹貫百拾五匁分五厘 「
此高六万九千三百四拾六石六升壹合
但高百石二付銀壹匁六分壹厘
坂井郡与頭 □
吉田郡与頭 大野

此割
銀百三拾五匁七分 舟寄組

此高八千百貳拾八石六斗九升壹合
内千六百貳拾九石八升七合 舟寄村高之内
右同断

外八百拾四石五斗四升三合 舟寄村高之内
右同断
銀百七匁八分 東長田組

此高
銀百七拾八匁分 下兵庫組

此高
銀百八拾匁分 布目村
此高
銀百四拾九匁九分 前谷村

此高

銀百六拾五匁貳分

後山組

四匁 麻木簾拾枚

菅野村

此高

銀三拾壹匁七分

光明寺組

壹匁五分 竹拾五本

同村

此高

銀三拾三匁

森川組

三匁 同拾枚

下関村

此高

銀四拾六匁

伊地知組

四匁 鞍かりちん

前谷村

此高

銀七拾八匁六分

猪嶋組

八匁四分 門松三飾

青野木村

此高

右同断

帳壹冊

拾壹匁貳分 同四飾

十楽村

ノ

右之指引算用

一銀貳百九拾七匁六分六厘

亥「」

ノ三拾六匁四分

夏割之内

一銀百四拾九匁九分

同冬「」

七匁貳分 殿様能州へ御越之時馬四疋十楽村に立花迄(加賀)

同村

一銀拾四匁九分六厘

坂井郡内「」

壹匁八分 右同時

宮谷村

此丁銀拾三匁五分貳厘 両かへ六拾六匁四分かへ

ノ四百六拾貳匁五分貳厘

貳匁 同断

中川村

内

壹匁三分 石花(マ)壹升去年盛落 十楽村

三匁 麻木簾五枚

馬場村

残而

ノ百貳拾三匁四分

笹岡村

銀三百三拾九匁壹分貳厘

青野木村

殿様能州へ御越之時十楽村へ御泊り被成候付、坂井郡内割二而与内銀

内百八拾八匁五分四厘

高塚村

亥夏仮割銀

亥冬盛之内

此金貳兩三分 両かへ六拾八匁五分六厘
残而
銀百五拾匁五分八厘

此丁銀百三拾五匁八分貳厘

此金貳兩壹分丁銀八分貳厘 両かへ六拾六匁四分

右之通ニ而戌十月十五日ハ亥十一月十二日迄之諸色指引吟味之

上割方相濟申候ニ付、今日何れも退去仕候

一竹拾四本三寸五分廻り、亥四月十九日山室□□出し候を盛落候、

重而断可申事

一高瀬・四ツ柳・四郎丸・正蓮花・沖布目・福嶋・「」・北横

地村之内、此八ヶ村亥八月二丸岡御「」一処、何れも失念ニ

而戌暮ハ亥夏迄之割「」一不申候ニ付、右割銀之通先与頭中

取立「」一様ニと相断申候

一坂井郡鳥運上望之者有之ハ、来ル廿五□□之内入札持参可有之、

望無之分ハ村付之肩ニ断書致候之、村下ニ印形いたし「」一相

廻シ、留村ハ可相返候、以上

亥十月廿二日

木内八九郎 印

前谷組村々

覚

一今度金銀吹被仰付、吹直り候金銀段々世間へ可相渡之間、有来金

銀と新金銀と同事ニ相心得、古金銀不残吹直り候迄新金銀と入交、

遣方・請取渡兩替共□□^(無滞)用可申候、上納金銀も右可為同前事

一新金銀金座・銀座ハ出候之、世間之古金□□^(銀と)可引替候、其節金銀

共ニ員数を増「」^(可相渡事カ)

一金銀町人手前ハ引替ニ成候間、武家方□□^(其外)之金銀ハ勝手次第第二町

人へ相對ニ而相渡し、引替可申事

附、古金銀貯置不申、段々引替可申□□^(候)

右之条々国々所々ニ至迄も可存者□□^(也)

亥九月十八日

右之通御組頭中ハ書付出候ニ付、御代官所村々へ相触候間書面之

趣得其意、右金銀不相貯勝手次第引替可申、此廻状村下致印判順々

相廻シ、留村ハ可相返候、以上

十月

^(宗倉・舟寄代官)
宗与兵衛 印

御代官所
村々庄屋

覚

亥年御割付式拾壹本

前谷組

右者拙者共与下当亥之御割付請取申候、村々庄屋・長百姓・惣百

姓代召呼被仰附候趣委細申聞、一村切ニ相渡証文取置□□可申候、

尤半米納之分御米支度為致、御支「」一御米御吟味之節俵相

違無之由「」一分も御直段被仰付次第日切遅々□□上納仕候

様ニ、是又兼而支度為致置可申□□、後日証文仍如件

元禄八年亥十一月

^(前谷村与頭)
次郎左衛門 印

右坂井郡与頭不残一紙ニ而指上候

十一月十四日

一 東善寺村十右衛門、久兵衛と出入之証文相究申度と願申候

覚

同十五日

一 明後十七日与中指引割可仕由はいふ出し候

式寸五分廻り

右之通明後十七日ニ持参候様ニ可被仰付「」舟寄善右衛門殿

一 谷畠村武兵衛、小百姓式人召連参候而、当作悪候処御免上り候て

右被申越候

一 村中難儀候間、此段申上くれ候様ニと我等舟寄ニ罷有候内訴訟参

一 竹式拾五本

矢地村「」

候由ニ候故、今日庄屋長百姓呼寄、是非共村中共ニ潰ニ及申事ニ

一 竹式拾五本

菅野村「」

候ハ、御取次可申候間、御陣屋へ御訴訟申上候様ニと申渡し候へ

右之通はいふニ而申遣候

ハ、只今御訴訟申上候而も叶可申共不奉存候へハ、舟寄へ参候ニ

一 数右衛門様普請所御見分ニ何時御出□□^(候哉)為窺之中川村之人足ニ書

ハ及申間敷候、村中共ニ倒申義兼而申上くれ候様ニと申、舟寄へ

状為持遣候、則十八日時分ニ御出可被成由御□□^(返)事被下候

ハ参間敷由申ニ付其通ニいたし候

一 亥九月五日ニ下関村七右衛門ハ戌御未進金之内四両壹分預り候て

十一月十七日

手形相渡置候、則其金子指上候而御手形取置候処、右之我等預り

一 与中庄屋長百不残^(姓脱)寄合諸事指引割方相濟申候、諸帳面ニ判取申候

手形同村九兵衛ハ持参候ニ付、上納手形と引かへ相渡申候

一 数右衛門様・藤四郎様ハ廿日切請合金早々指上候様ニと御配符被

一 十楽村作右衛門弟七右衛門、伯父与右衛門方へ入聲仕候、与右衛

遣候ニ付、庄屋中□かたく申付候

門ハ当四月ニ相果申候、七右衛門江戸ニ而当月ニ相果申候、御

一 蕎麦三升壹合中川村、同壹升□合田中村、同五升前谷村、蕎麦粉

高七石四斗式升六合七勺所持仕候、右七右衛門ニかし方有之由ニ

三升十楽村、当秋中度々舟寄御陣屋ニ指上、代銭百文被下候へ共

付、同村十三郎方へ下シ来引取申候由ニ而作右衛門方ハ訴状指上

直段不足ニ付、与中ハ与内可申候処盛落申候、重而わり可申筈ニ

候

候

一 矢地村彦介・九兵衛其外小百姓共参候ニ付、菅野十右衛門嚙ニ而

一 十楽村作右衛門昨日書付持参いたし候ニ付、庄屋中ニ様子可相尋

七郎右衛門与を放可申由候間重而証文を取善右衛門与へ付可申由

可申候処、十三郎かし方有之由ニ「」庄屋中ハ判形不仕候由

申渡候

五十郎ニ申ニ付、右之書付五十郎ニ相渡し村ニ而吟味仕候様ニと

申渡し候

一 下関村籠入之雑用村割之銀子、九兵衛「」候ニ付跡々村法ニ可仕候、此方於「」与ハ御納所も相応ニ仕候へハ、右之わり懸□可申事とハ不存候と申候

一 笹岡村宗左衛門最前大進何角と断申ニ付、村中長百姓証文指上候様ニと申付「」右衛門・宗右衛門・彦三郎判形仕不申候由断申ニ付而、とかく称運寺御出候様ニと申付候

一 愛宕山御札進物、宝性院御札進物、不残村々相渡し申候

十一月十八日

一 笹岡称運寺被参候而大進不「」段々承候而、とかく村之者と相談被致、村中「」先老僧致置之通ニ被成可然と申候

同十九日

一 中浜村五右衛門用事候而参候

一 廿日切御金之事村々はいふ遣し□

一 菅野村半右衛門方へかけのかり馬「」申候

同廿日

一 新金之御廻状重義村志比境村へ「」可申村付□処、重義村志比境村へ「」跡へ返し候ニ付、此中此辺村々数返

「」仕候付、右之段々断申、布目彦兵衛方へ御廻状遣シ候

一 数右衛門様普請御見分ニ御出おそく候ニ付、様子為御窺之書状前谷村御金上ケ之者ニ遣し候

一 新用村へ十月廿三日ニ割当候麻木簀舟寄留帳ニ無之候ニ付、吟味仕候へハ、下新庄村と帳ニ付違申ニ付兵庫与へ代銀相渡し□、武兵衛方指引仕候様ニと舟寄善右衛門殿書状被遣候

一 金五両、此質山三ヶ所、貸主金津助右衛門、かり主十楽彦四郎・又十郎御裏判奉願候ニ付添証文指上候

一 数右衛門様御返事参候、廿四五日時分ニ御出可被成由ニ被仰付候

一 福井安穩寺使僧被遣候

一 兵庫与之者共与頭給之義ニ付当廿五日ニ舟寄へ寄合可申由、方さ(々脱)そひ合申由承及候ニ付、則舟寄善右衛門方へ其段申遣候

同廿一日

一 為中勘定相談之布目村へ参候

十一月廿二日

一 次郎丸村願光ニ後山茂右衛門殿書状を指添候而布目迄被指越候、願光不埒事申付候而返事も不仕候

一 兵庫武兵衛・長田源右衛門・後山善兵衛方へも寄合被申候様ニと申手紙遣し候、武兵衛ハ今日参候

一出村吉左衛門ニ金式分かし申候

同廿三日

一源左衛門・善兵衛今日被参候

同廿四日

一中勘定相談之義村々細ニ吟味仕随分取立可申候、何とそいたし去年の少ニ而も取込候様ニと申合候

同廿五日

一横田数右衛門様御普請所御見分ニ今日御出候而、田中・中川御普請御見分候而自分方ニ御泊り

一後山茂右衛門殿にお三ニ書状被遣候

十一月廿六日

一廿九日の中勘定相究候由村々へはいふ遣候

一柵村吉兵衛去廿一日ニ柵村・二郎丸村之間ニ而金□□壹分おとし候間、若村々之内ニ而「候ハ、出し候様ニと申触候

覚

一金拾両三分 笹岡村

一金五両壹分 宮谷村

一金三分 高つか村

一金壹両 馬場村

一金貳分

東善寺村

右不足御書出し藤四郎様を被遣候、其上御用之事有之候間、廿廿七日舟寄迄参候様ニと御配符舟寄は是ニ被遣候

同廿七日

一数右衛門様村々御普請所御見分被遊候而直ニ舟寄へ御帰り可被成由ニ而、権右衛門御供いたし舟□□遣し申候

一右不足金御書出し之通村々へ申付候

一笹岡惣左衛門廿日切之御金、明廿八日ニ不残上納仕候ハ、今日迄之延引其通ニも可「候へ共、明廿八日ニ上納無之候ハ、明

後日ニハ庄屋長百姓舟寄へ遣し候由、かたく相断置申候

一藤四郎様権右衛門ニ被仰付候ハ、笹岡村庄や長百姓我かま、二候間早々舟寄へ遣シ可申候、急度御せんき可被遊由、其上中勘定金

方八分の内ニ相究申間敷候と被仰越候、若中勘定何角と申請不申

候者ハ、指紙をそへ早々舟寄へ遣し可申候由八九郎様御意ニ候、

権右衛門同日罷歸り候

一青野木孫四郎・新兵衛・勘四郎同道ニ而「申候ハ、新兵衛

親徳兵衛持高拾石「八合七勺、右之高廿六年以前戌年を落

「村分「罷成、八年目巳ノ年を酉ノ年迄弥次兵衛□

□、戌年を新兵衛請取姉智勘四郎「新兵衛ハ九年以前卯

年江戸へ参「近江屋善八かしニ罷有候、然処用「

返りニ参候へハ、此高新兵衛と吟味「弥次兵衛方へ取返

し可申候間、新兵衛「」返し申間敷由、弥次兵衛ニ申来□月
 中ニハ可参と色々断候へ共、弥次兵衛承引無之迷惑之由申来り候
 二付、新兵衛とせんき、右之高取返し可申証文等有之候哉と相尋
 候へ共、証文等無之由孫四郎申二付、左様ニ候ハ、先新兵衛ハ江
 戸へ返し出入ハ来年之事ニ可仕候、又とても出入ニ可仕子細有之
 ハ書付を以可申上候、取次可申と申渡し三人共ニ返し申候
 一 数右衛門様御越被成候事遅候由ニ而、兵庫武兵衛方村次ニ而手
 かミ参候

十一月廿八日

一 数右衛門様舟寄へ御歸り之由申遣し候返事村次ニ而兵庫へ遣し候
 一 笹岡村御金遅々仕候ニ付、庄屋長百姓共舟寄へ遣し候様ニと藤四
 郎様直ニ召状夜通しニ参、明日早々指越可申由返事指上申候

十一月廿九日

一 笹岡村庄屋長百姓舟寄へ可遣之処、明日中ニ御金舟寄へ上納可仕
 由、中川宮・谷庄屋中断ニ付遣し不申候
 一 中勘定之義明日舟寄へ可参由布目被申二付、其状後山遣し申候
 一 中川・菅野・山室・宮谷・青野木中勘定相究申候

十一月晦日

一 滝右衛門様御配符ニ而中勘定之次第被仰越候由ニ而、今日舟寄

参間敷由布目被申越候ニ付、其状後山へ遣し参不申候

一 御年貢御取立之義ニ付御用候間、明日舟寄へ参候様ニと数右衛門
 様・藤四郎様「」被遣候

一 与下村々庄屋不残来二日ニ御勘「」指越候様ニと数右衛門
 様被仰越□

一 笹岡村庄屋長百姓舟寄へ遣し候様□藤四郎様御配符被遣候
 一 数右衛門様長四郎様返状指上候

一 笹岡村御金調持参申二付□上書指上□□

一 前谷・北野・北村・田中・矢地・西方寺・十楽・清王・高つか・
 新用・馬場・東善寺・谷畠中勘定相究申候

十二月朔日

一 舟寄へ何れも与頭中不残被召寄、当年貢金方之分惣高ハ八分通、
 年内ニ取立候様と江戸被仰越候間、急度取立候様ニと被仰付候
 二付与頭共申上候ハ、最前我々下段々詮儀仕候処、当年之儀
 村々より候て六分通ニも参付不申候間、御了簡被成被下候様ニ
 と御訴訟申上候
 一 数右衛門様御支配村々庄屋長百姓明日参候様ニと、村々へ舟寄ハ
 はいふ遣し候

同二日

指上申一札之事

当亥為御檢見村々へ御役人様方御廻り之節者不及申上、船寄村ニ
 而も御家来中へ音物等仕候哉と無覺束思召、御詮儀之上拙者共被
 仰付候者、与下村々吟味仕音物仕候者有之候ハ、無隱可申上旨被
 仰渡、則老与切ニ銘々(詮議任カ)少之物ニ而も音物仕候者無御座候、
 若御法度相背候村庄屋長百姓隱置後日ニ露頭仕候ハ、拙者とも
 何分之越度ニも被仰付、其村之儀ハ如何様之曲事ニ被仰付候共御
 非義と奉(申上間カ)敷候、為後日証文指上候申所仍如件

元禄八年亥十月

坂井郡与頭六人印

木内八九郎様

指上申一札之事

一御口米之義、半金納分金納御直段(三カ)御取立ニ候、半米納之分ハ来
 春夏御米売立直段ニ御取立可被遊由被仰渡候へ共、御米村々ニ預
 り置候事□□不勝手ニ御座候故、跡々先御代官様方へ「□」
 申上、右両用共ニ一所ニ金納直段ニ指上申「□」も金納御直
 段ニ指上申度由、何も村々「□」跡々之通、御口米半金納・
 半米納共ニ金納(直)段ニ一所ニ御取立被遊可被下候、為其一札判形
 「□」

元禄八年十一月

坂井郡与頭六人印

右式通之証文指上申候

一村々庄屋長百姓数右衛門様へ被召寄、先月廿日切之御金遲納之儀、
 惣而御用ニ付油断之義有之候ハ、急度可被仰付由、為御届被召寄
 急度御断被仰聞候

十二月三日

一亥中勘定之儀、大概申上候上ニ金子式拾兩御増被成候而被仰付候、
 少之事ニ候故御請申上候

一村々庄屋長百姓明四日ニ参候ニ付はいふ遣し申候

一当月五日六日両之内、天氣次第権現様御神輿三国ノ本庄・金津通
 り丸岡へ御越被為成候ニ付、谷畑・東善寺・馬場・下関村地之内、
 御通り道筋悪敷所能仕候様ニとはいふ遣し候、則老本田村孫兵衛・
 滝谷村九右衛門・高柳村九左衛門方ノ廻状遣し候ニ付、其趣舟寄
 へ申上候へハ御役人様方ノ右之趣被仰付候

一御裏判ニ聞申ニ付段々申上候へハ、村々借金証文ニ御裏判被成可
 被下由ニ候

一舟寄ノ罷歸り候

一油御直段老升ニ付三匁五分九厘

一亥年 半金納老石ニ付四拾七匁六分
 半米納老石ニ付四拾五匁六分

一与頭給米老石ニ付四拾五匁六分宛ニ村々へ申渡し、米代銀・給銀
 共ニ書付相渡し申候

十二月四日

一村々庄屋長百姓呼寄、中勘定之義最前相定候通少も無不足日切之
 通上納可有候、舟寄ニ而ハ銀高ノ八分御取立可被遊由ニ候へ共、
 色々御断を申上候而右之通相濟候間、早々小百姓前弥吟味候而、

不足可有事二候ハ、早々断可被申由申断候

一与頭給割方銀共二早々取立被相済候様ニと申渡し候

一下関与三兵衛江戸昨三日ニ罷帰候由ニ而被参候

同五日

一中勘定之儀ニ付下関村へ罷越、与三兵衛方ニ泊り罷有候、中勘定相究申候

一上関村次兵衛方へ立寄様子之事共承候

同六日

一下関村を轟木村へ罷越助右衛門方ニ泊り罷有候

一笹岡宗左衛門・宗右衛門下関村へ被参候而中勘定相済申候

一下関村五人与帳、庄屋代り証文ニ判取申候

一下関村を罷出轟木村ニ泊り申候

同七日

一轟木村中勘定、忝人吟味之「一」取、則数右衛門様迄為持遣し候

一惣与中之中勘定帳轟木村ニ而書立候而、数右衛門様・藤四郎御両方御支配切帳式冊ニ仕指上申候

十二月八日

一中勘定帳・轟木村忝人吟味帳共ニ轟木助右衛門ニ為持舟寄へ指上申候

一轟木村を罷立、谷島・東善寺・新用・馬場・菅野・矢地村善右衛門方ニ泊り申候

一高六石八斗式升八合下関村伝介持高二候処、同村利兵衛預り申候、是ハ何時ニ而も代銀本銀ニ而相済候次第ニ高返し可申定二候

一高三石五斗同村十兵衛持高之内切高仕、同村茂左衛門ニ子春を未ノ暮迄八ケ年季本物返し預り申由断二候

一高八石四斗同村喜兵衛持高、同村七郎右衛門子春を酉暮迄十年季本物返し預り申由断二候

一矢地村靈順出入出入之儀ニ付、靈順方を田方下シ米書出し申二付、請作人吟味仕^(符)□処、請作人書出し判形仕候処、靈順請作人書出し之通米請取不申候と申二付、埒明不申候ニ付おさくニ申聞候ハ、靈順^(何か)□と申二付此義埒明不申候、然共当年ハ御取立ニ而出入聞なく候間、来春迄相待候様ニと申付候、詮儀之段々ハ同村庄屋長百姓承届候

同九日

一矢地村善右衛門方を金壹両、夏中清兵衛ニ貸金ニ請取申候

一矢地靈順借銀質物書出候ニ付、おさく并同村善兵衛・武兵衛ニ我等手紙相添、金津質屋同銀かし主南金津米屋助右衛門、平野屋弥

介方へ尋二遣し申候

一 矢地四郎右衛門後家方へ靈順為立審申間敷由証文取申候

一同村七郎右衛門与拾五人、善右衛門与二付申二付証文取申候

一 江戸納庄屋長田喜右衛門・後山源兵衛の、廻船遅参二付御米大分

之欠米ニ而損料参候間、願状指上候様ニと与頭中へ廻状遣し申二

付今日布目の参候、十一月十二日之之書状(符)ニ候

一 数右衛門様・藤四郎様、中勘定帳御請之由御返事被遣候、村々へ

御廻状被遣候二付村々へ遣し申候

一 大連三郎左衛門・同彦四郎方の舟寄へ申上、切米年内ニかりくれ

候様ニと申越候

十二月十日

一 舟寄御役人中へ十日切御金不足之義断之書状前谷市兵衛ニ遣し申

候

一同善右衛門方へ大連願之事書状遣し候

一 権右衛門村々十日切御金之事ニ遣し

(有馬清純)
有馬左衛門佐様御役

御家老 有馬縫右衛門殿

同 有馬四郎左衛門殿

同 堀 齋 宮殿

奉行 田中十兵衛殿

郡代 仁保庄兵衛殿

同 神代吉兵衛殿

頭取 鳥飼弥左衛門殿

同 村田長右衛門殿

郡代方 藤井次兵衛殿

同 前羽武左衛門殿

御代官四人

桑野庄右衛門殿
鳥飼一一殿
鳥越次郎一殿
橋本一右衛門殿

一 御役人様方の御返事参候

同十二月十一日

一 十日切御金上納無之村ハ今日之内ニ上納可申候、納不足有之村ハ

早々上納申様ニと村々へ申遣候

一 権右衛門、笹岡・宮谷・青野木・西方寺・十楽・清王・高つか・

山室を廻り罷歸り候、但昨夜ハ十楽村ニ泊り申由

一 大工彦七十二月朔の同十日迄日数十日遣申候

同十二日

一 後山へ仙右衛門様御越之由茂右衛門殿被申越候ニ付、仙右衛門様

為御見廻権右衛門遣し申候

一 柵村甚兵衛子仁左と申者、当亥春の卯暮迄五年季ニ為切米銀六匁

米壹表、去戌暮相渡し候処不奉公仕、其上方々謀事を申あるき申

二付遣申事成不申ニ付、右之銀米返し候様ニ被仰付被下候様ニと

後山茂右衛門殿へ申入候
一仙右衛門様為御見廻と権右衛門後山ニ遣し候

同十三日

一村々御取立之儀ニ付藤四郎様御越被成、御迎人足耆人田中村の遣し候

一舟寄善右衛門殿の盛銀之儀ニ付状被越候

一八木忠兵衛殿の大割金之内□両、去暮□かへ金耆与の耆兩宛直忠

兵衛殿方へ請□申度と被申越候、則善右衛門方ニ断申候由ニ

□候

御勘定御与頭(忠直)

諸星伝左衛門様

(荻原重秀)

荻原彦次郎様

御殿御与頭

竹村弥兵衛様

細田三右衛門様

穴倉喜左衛門様

同 七之介様

神田喜兵衛様

高嶋太次兵衛様

同十四日

一金耆兩耆分之内七拾匁五分山室村分、四匁五分菅野十右衛門入と帳付申候

一村々庄屋長百姓被召寄、十日切不足金、廿日切請合金之御吟味被成候
一 数右衛門様今日兵庫迄御出書并御状兵庫の村次ニ被遣候

十二月十五日

一金三分新用弥三兵衛の請取、内四拾四匁六分六厘指引銀ニ請取、残而三分四厘錢ニ而返ス

一金耆分十一月廿九日ニ下関九兵衛の請取、今日三分請取候ニ付、
ノ金耆兩と指引帳ニ付

一 矢地村二郎兵衛、同村清兵衛ニ田下シ申候延年貢米立不申由断申
ニ付、庄屋方へ埒明候様ニとはいふ遣し候

一新用・馬場・谷畠・轟木・下関村九兵衛庄屋共参候ニ付、十五日
切・廿日切之御金之事申付候

一 数右衛門様へ今日返事村次ニ而遣し候

十二月十六日

一 山室村権兵衛持高四石八斗七升三合、此借方銀百貳拾五匁金津助
右衛門、銀九拾七匁五分同所宗兵衛、銀拾七匁同所平野屋弥介、
銀三拾三匁同所油屋徳兵衛、銀三拾匁山室村庄介、惣銀ノ三百貳
匁五分、来子ノ年辰ノ年迄本銀ニ而五年符、耆ケ年ニ六拾匁五
分ニ方々断を申相究候、持高五年之間預ケ権兵衛・同弟七兵衛兩
人共ニ奉公仕、年符相済候而五年過候ハ、高主ニ成申様ニ相談い

たし候由、庄屋吉右衛門断被申候

一三宅惣太夫様へ遣し候状忝通、小木仙右衛門様迄遣し申候

一鞍褰口切付馬、肌馬(鬣)せん三かい、轡・鐙・手綱・鞍箱共二代銀白

銀四拾匁二買申候

一御普請方入用槓木・雜丸太・竹・藤・鉄「」大工作料入札望

之者有之候ハ、相触「」入札当月廿一日四ツ時分二石田御

陣屋□持参仕候様ニと入札之目錄舟寄を被遣候へ共、目錄之様子

ハ亥二月十二日ニ御触状写置申ニ相違無之候ニ付留置不申候

同十七日

一右御普請方入札之儀与下村々へはいふニ而申遣候

一藤四郎様舟寄村御帰り被成候

一出村半左衛門義ニ付本庄道休方へ参候□、道休三国ニ罷有候ニ付

夫の三国へ参候

同十八日

一三国ニ而半左衛門詮儀段々承候、加州を罷帰不申候ニ付不埒ニ候

故滞留いたし候

同十九日

当亥御年貢来春江戸廻米、去戌之御年貢当春江戸納致し候米高半

分相廻候様ニ江戸を申来候間、左様ニ相心得各与下村々へ可被申

渡候、米員数之義ハ重而可申渡候、以上

亥十二月十八日

木内八九郎印

坂井郡
与頭六人

右ハ布目を参候ニ付後山へ遣し申候

一三国を罷帰り候

同廿日

一廿日切り請合金之事并御廻米之事、村「」申遣し候

一金壹分前谷市兵衛を入、此内ニ而拾匁九分□□、残而三匁三厘、

銀子ニ而預り申候

一下関村利兵衛与廿日請合金之内六両上納、残而ハ同廿二日ニ相済

可申由断有之候

一三国麦屋太兵衛方を舟頭五兵衛と申者ニ□為持米積ニ遣し申候

一藤四郎様明日御越可被成由御状被遣候

一数右衛門様御支配下村々被遣候返り廻状参候

同廿一日

一藤四郎様明日御出被成候間、村々庄屋長百姓中被参候様ニと配符

遣し候

一藤四郎様為御迎前谷市兵衛舟寄へ遣し候、則大割金之内壹両八木

忠兵衛方へ遣し候、式両ハ恩知善右衛門方へ遣し候

一御取立之儀、藤四郎様舟寄村人足ニ而御越被成候

一御取立之儀ニ付数右衛門様を御状被遣候、但東長田ニ被成御座候
而夫の村次ニ而被遣候

一御取立之儀ニ付昨日の権右衛門村々へ遣し候て、新用泊り候て今
日罷歸り候

一清間村茂左衛門方ニ預ケ置候拾表之米、舟頭三国五兵衛ニ相渡し
候、内五表者三国^(麦屋)太兵衛方へ、三表ハ出村甚左衛門方へ、式表
ハ出村吉左衛門方へ相渡し候様ニと手形遣し候
一正木五挺六寸角壺本、麦屋太兵衛の右之舟ニ参候

十二月廿二日

一御普請方入札之御目録矢地村の御金上ケニ参候、権兵衛ニ為持舟
寄善右衛門殿へ遣し申候

一村々庄屋長百姓呼寄候而廿日切御金上納手形吟味之上、残金二三
日之内ニ相済可申由かたく請合申候

一門松三かさり分松六本 菅野村

内壺かさりハ長七尺、五かい松^(蓋)

式かさりハ長六尺、五かい松

一門松三かさり分松六本 山室村

長六尺、五かい松

外

葉竹拾式本内

六本 菅野村
六本 山室村

杭木六拾本内

三拾本 菅野村
三拾本 山室村

右ハ舟寄御陣屋門松御用之由舟寄村善右衛門殿を申来候ニ付、当
廿五日迄□内舟寄へ持参、覚兵衛ニ相渡し候様□申遣し候

一御普請方入札之義御返事待候由被仰□^(候)段舟寄庄右衛門方を被申越
候

同廿三日

一右御ふしん入札之御断ニ権右衛門舟寄へ遣□^(候)

一數右衛門様を村々取立之儀ニ御状被□^(遣候)

同廿四日

一残金為吟味之矢地・菅野・山室へ参、宮谷村ニ一宿仕候処廿五日・
六日ニ可相済由申ニ付其通ニいたし候

同廿五日

一宮谷村を罷出、高塚・新用・馬場・谷畠・轟木・下関村請合金之

吟味いたし宿へ罷歸候

一藤四郎様御歸り被成候

十二月廿六日

一舟寄へ参御取立之義共申上候

一轟木村戌未進金五両式分、八九郎様を亥九月廿九日ニ借出上納為
致、籠入長右衛門御詔言申上候、金子度々轟木村を請取八九郎様

へ指上、自分入置候証文請出し消申候

覚

当御年貢為御取立御支配中村方ニ□留之節、賄入用諸色買上ニ被致候「一」村方へ割出し候代物有之間敷と「一」、併払方不足之分有之候ハ、其沙^(汰)□可有之候、各書付出次第同役中へ申付□□代物可渡候、且又役人ニ対し村方費之□候^(儀)ハ、早々可申出候、此方へ無断役人為入用村方へ若少成共割出し候か、又ハ陣屋并支配方役人中へ音信音物之義ハ不及申ニ、何ニ而も村方百姓費之義隠置脇^を令露頭ハ、江戸御屋敷へ得御下知急度可申付候

右兩様相違之義無之候ハ、前書之趣を証文出し可申候

附、歳暮并正月為年礼、陣屋ハ不及申ニ支配方へも何れも之外、村方庄屋長百姓參問敷候由組下村々へ急度可被申付候、年礼之時分も持參物一切可致無用候、右之趣相背候ハ、其者ハ不及申ニ各共ニ、旦那来秋御廻郷之節急度可被仰付条不念有間敷候

右書付名所致印判無遅々相廻シ、留り之方^を可被相返候、役人中逗留無之村ニ而者其趣書記、費之訳文言ニ相載証文遣可候^(申脱)

亥
十二月廿六日

木内八九郎 印

前谷村与頭

次郎左衛門殿

後山村与頭

茂右衛門殿

覚

犬牛馬之義、鹿末ニ不致惣而生類憐之義又ハ右煩候時分致療治、

捨馬堅仕間敷旨村々へ兼而急度申付候通、各ニも無懈怠組下村々へ可被申付義と存候、右之趣只今迄不念之義無之候ハ、其訳一紙証文一組切ニ各判形ニ而可被出^(候)□、村方^をハ各方へ証文取置可被申候、以上

亥

十二月廿六日

木内八九郎 印

前谷村与頭

二郎左衛門殿

後山村与頭

茂右衛門殿

右之通御触状被遣候

十二月廿七日

一 村々庄屋中呼寄、郷藏預り米之証文ニ判形取申候

一 東善寺村^を金式分請取、内式拾四匁四分八厘請取、残而五匁五分式厘つり銀相渡し申候

清王・十楽両村盛銀・与頭給銀指算用□□

一 丁銀拾八匁五分

清王村盛・与頭給^(分九)□

一同式拾壹匁六分六厘

同村・青野分^(木脱)

一同五拾四匁六分八厘

十楽村盛銀・与頭給□

一同三拾式匁分八厘

同青野木村分

一同五匁式分五厘

山室村米之代十楽出分

一同五匁式分五厘

宮谷村同断

メ百三拾七匁六分式厘

内

百式拾四匁九分壹厘 十楽村の万引かへ物

三匁八分 青野木村分与頭給之内七月十四日二入

百式拾八匁七分壹厘 丁銀二而請取

錢銀九匁 自分かい申茶拾式斤

同式匁四分 同石花三升之代銀

同式匁式分 茸・大根之代銀

拾三匁六分 此丁銀拾式匁六分九厘

式口百丁銀百四拾壹匁四分

内三匁七分八厘 過上銀

一金壹分田中村小兵衛の入、内八匁四分夏貸銀利足之内二取、六匁

六分盛銀之内二請取

一丁銀拾五匁六分矢地七郎右衛門亥夏かし銀之利、内拾五匁請取、

残而六分、外盛銀・与頭給銀□□引、残銀四拾式匁三分、百四拾

式匁九分、内拾五匁伊左衛門方竹代銀之由、預り金右之銀之内

請取、残而金式分請取、此内式匁壹分善右衛門の

一丁銀七匁八分、矢地清兵衛亥夏かし銀之利足、盛^(銀)□・与頭給共二

七拾三匁八分三厘、内壹匁八分九厘「一分共二八拾壹匁六

分三厘、内四匁五分八厘引「四拾五匁十二月廿一日二入、

拾式匁七分八厘油代銀「渡候分式匁九分九厘、二郎兵衛油

代銀壹匁八「善右衛門・助右衛門引かへ銀六拾七匁式分

壹厘、残而「四分式厘、内式匁壹分六厘、武兵衛過「引、

引残拾式匁式分六厘、内式匁壹分七郎右衛門二「

一金式兩式分、北村五兵衛亥夏かし金、此「拾九匁五分、金

三分同人二月八日かし、此「三匁六分、元利百拾八匁

壹分、内金式□冬中請取、七拾八匁六分七厘米四表二而請^(取)□、壹

表二拾九匁六分七厘、残而拾九匁四分三厘御年貢二指次請取

覚

一当御年貢為御取立御役人様村方へ御出被遊御逗留之節、御賄入用

諸色御買立二被成、代銀無相違御払被遊少も不足無御座候、且又

御役人様へ対し村方二費之儀も有之候ハ、申上候様ニと被仰付候

へ共、少も費之儀無御座候、并御陣屋之儀ハ不及申上ニ、御役人

様へ音信音物少も指上申候、何二而も百姓費之^(不脱)之義隱置脇を露頭

仕候ハ、何様ニも可被仰付候、

附り、歳暮并為正月御礼御陣屋又ハ御役人様へ罷出間敷旨被仰

渡堅村々へ申付候

一来正月罷成候共博奕賭之諸勝負堅御停止之旨村々へ申渡し候、并

惣而何二不寄酒肴調奢ケ間敷事仕間敷旨、拙者下村々へ急度申

渡し、庄屋長百姓証文取置候ニ付拙者証文指上申処仍如件

元禄八年亥十二月

木内八九郎様 此証文与頭中不残判形仕候

覚

一犬牛馬之義龜末二不致、惣而生類憐之儀又右煩候時分療治いた

し可申候、殊捨馬之義兼而被仰付候通少も無懈怠拙者下村々

へ毎度申付候、弥不仕様ニ判形取置候ニ付、拙者証文指上申処

仍如件

前谷村与頭

次郎左衛門 印

元禄八年亥十二月

木内八九郎様

十二月廿八日

一 下関村与三兵衛亥年上乘ニ参候ハ、舟積七月二日、出船ハ七月十日、罷歸り候ハ十二月三日、賃金之外壹兩貳分江戸ニ而かり申候、日数百五十日

一 笹岡村もり銀不足金壹分錢拾八匁六分式厘請取相濟候

一 轟木村金五兩貳分亥九月貸金、貳分ハ亥五月ニかし金入方指引証
文有

同廿九日

一 矢地村請合不足有之由被仰越候、吟味いたし書付指上候へハ相違無^(之)□由、数右衛門様御返事被遣候

一 後山善兵衛金三分錢拾六匁被指□□、内金壹分ハ玄女善右衛門

ニかし金、残ハ「」引かへニ取申候

一 矢地靈順おさくといさかい仕「」負申由庄屋中断、亥割時分

「」ニ付、今夜之事ニ候へハ何之吟味成「」、正月五ケ日

過候ハ、舟寄へ御断可申上候間、夫迄靈順方宿をかり候而養生

仕養可申由、庄屋長百姓へはいふニ而申遣し候

